

徵兵法規

全

特56

97

039050-000-7

特56-97

徵兵法規

伊藤 近春

一色 範叙 編

M22.6

BCC-0293





仙臺大隊區長官室位敷三井街清顯 校閱

鼇頭 徵兵法規 全

宮城縣兵事課負一色範叙

同

伊藤近春

合纂

鼇頭 徵兵法規

例言

一本書ハ編者執務ノ際徵兵令活用ノ便ヲ圖リ公務ノ餘暇ヲ以テ編纂  
セシモノニシテ則チ目次ニ載スル徵兵令等ヲ本トシ之ニ連關スル  
條例施行細則及ヒ舊徵兵令其他法令ノ全文ヲ各條項ノ下ニ插入シ  
且ツ鼇頭ニハ法文ノ釋義及ヒ緊要ノ手續ヲ附記シ以テ一目ノ下其  
條項全休ノ意義ヲ會得スルニ便ナラシム但一ノ法令ニシテ數條  
項ニ連關セルモノハ其關係ノ重モナル一方ニ插入シテ他ニ參照ヲ  
附ス

一本書ハ明治二十二年六月一日ノ現行法令ヲ編纂ス但一時ニ止マリ  
後來ノ參照ヲ要セサルモノハ之ヲ掲載セズ

一徵兵事務條例施行細則一年志願兵條例施行細則ハ條例各條ノ下ニ  
悉ク分載シタルヲ以テ條例ノ首ニ索引ヲ附シ其條項ノ所在ヲ明カ

持56  
97

02-22





ニス

一 齣頭ニ載スル所ノ釋義及ヒ手續ハ務メテ其出所ノ確實且ツ意義ノ  
 穩當ナルモノニ就キ其要領ヲ摘載シタルモノニシテ敢テ妄リニ私  
 見ヲ其間ニ插ミ以テ臆測ノ解釋ヲ下サス

一 豫備後備將校補充條例及ヒ陸軍各兵科豫備後備下士補充條例ハ既  
 ニ現役ニアラサル者ニ屬スルモノナリシト雖モ一年志願兵條例ニ  
 密着ノ關係ヲ有シ必要缺クヘカラサルモノアリト認ムルニ據リ之  
 ヲ掲載ス

明治二十二年六月

編者識

釋義 徵兵法規目次

○ 徵兵令		一丁
○ 徵兵事務條例	條例施行細則	十二丁
○ 一年志願兵條例	條例施行細則	四十一丁
○ 陸軍豫備後備將校補充條例		五十七丁
○ 陸軍各兵科豫備後備下士補充條例		六十丁
○ 徵兵檢査規則		六十一丁
○ 徵兵檢査手續		六十四丁
○ 陸軍志願兵身體檢査規則		六十九丁
○ 徵兵旅費定則		七十四丁
○ 師團司令部條例		七十六丁
○ 旅團司令部條例		七十八丁
○ 大隊區司令部條例		七十九丁



- 陸軍常備隊配備表 八十丁
- 陸軍管區表 八十一丁
- 各師管監視區域表 八十四丁

徵兵令 (法律第一號 明治二十二年一月二十一日)

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

◎參照○例第六十七條同第六十八條○令第四十五條

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若



○大赦(特赦)ハ除ク  
タル者ハ本條ノ限  
リニアラズ

○海軍現役兵ハ沿  
海及島嶼ヲ包括セ  
ザル大隊區ニアリ  
テハ適當ノ者アリ  
ト雖氏徵集セラル  
ハコトナシ

○雜卒トハ陸軍ニ  
アリテハ輜重輸卒  
海軍ニアリテハ看  
病夫及厨夫等ヲ云  
フ

○滿十七歳ハ志願  
スル年ノ十二月ナ  
シテ分界トス  
○二十歳以上ノ者ハ志  
願スルコトヲ得

○滿十七歳ハ志願  
スル年ノ十二月ナ  
シテ分界トス  
○二十歳以上ノ者ハ志  
願スルコトヲ得

クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄  
中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サズ  
第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ  
從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ  
當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査  
シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法  
ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役  
スル者ハ本令ノ限ニ在ラズ  
警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ  
服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

●參照○例第四條同第十九條乃至第二十二條

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ  
但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役  
ニ服スルコトヲ得

●參照○例第六十條同第六十一條

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校帝國大學撰科及  
小學校ヲ除ク  
府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト  
同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依  
リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若  
クハ陸軍試驗委員ノ試験ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ  
自辨スル者ハ志願ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費  
用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコト



アルヘシ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業者ハ六箇月間陸軍現役ニ服スルコトヲ得其服役中ノ費用ハ當該學校ヨリ之ヲ辨償スルモノトス

前項志願兵ニシテ現役ヲ終リタル者ハ七箇年間豫備役ニ服シ三箇年間後備役ニ服ス

●文部省訓令第一號〔明治二十二年五月六日〕北海道廳府縣

明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムヘキ學校ハ其市町村立ニ係ルモノハ左ノ第一項及第二項ニ該當シ私立ニ係ルモノハ左ノ各項ニ該當スルヲ要スル儀ニ付該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ其狀況ヲ稟中スヘシ

- 一 普通學校ニ在リテハ中學校ノ成規ニ準據シタルモノタルヘシ農商工等ノ實業學校ニ在リテハ入學生徒ハ高等小學校卒業ノ者若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スル者ニシテ三箇年以上ノ學科課程ヲ具フルモノタルベク其他專門學校ニ在リテハ入學生徒ハ尋常中學校卒業ノ者若クハ概テ尋常中學校ノ程度ニ據リ相當ナル豫備ノ學科ヲ修メタル者ニシテ三箇年以上ノ學科課程ヲ具フルモノタルヘキ事
- 一 所定ノ學科ヲ教授スルコト足ルヘキ教員及校舍器具地所等ヲ具備スル事
- 一 學校長及教員任免ノ方法一定確實ナル事
- 一 授業料束脩等ノ如キ豫メ確定シ難キ收入金ヲ除キ毎年ノ費金中二千四百圓以上ハ全ク資本ノ利子ト認メ得ヘキモノアル事
- 一 設置以來三箇年ヲ經テ相當ノ成績アルモノタルヘキ事

●文部省〔專門學務局長〕專一八〇號通牒〔明治二十二年五月六日〕府縣

本年一月法律第一號ヲ以テ發布相成候徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムヘキ學校ノ内市町村立私立ニ係ルモノニ就テハ其認定方ノ要項本日訓令相成候處其府縣立ニ係ルモ



ノハ概テ該訓令第一項ヲ標準トシテ其設置ノ都度認定可相成管ニ  
候得共從來設置セラレタル學校ニシテ右ニ該當スル者有之候ハ、  
此際特ニ御上申相成度此段及御通牒候也

● 文部省告示第三號（明治二十二年五月九日）○京都府々立京都府醫學學校○大阪府々  
立大阪醫學學校○愛知縣々立愛知醫學學校……右ハ明治二十二年一月法  
律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ノモ  
ノト認ム

● 參考私立學校（明治二十二年四月一日現在）○獨逸學協會學校○英吉利法律學校○東京  
佛學校○東京專門學校○明治法律學校○專修學校○東京法學校  
● 參照○令第二十一條

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレ  
タル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコ  
トアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ平常ニ在テハ

毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點  
呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ  
平常ニ在テ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員  
ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癩疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照  
シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

● 參照○例第三十七條

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セ  
サル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

○見込アル者ハ適シキ  
○年滿四十歳迄ハ延  
○期ニ當ルモシテ延  
○キ項ニ當ルモシテ延  
○身ノ長ク見込ナ  
○キ者ハ二年ニ國民  
○編入ス







○徵令第二十條ニ當ル官吏ハ更ニ閣令第六號ノ手續ヲ爲スニアラサレハ召集セラルルモノナシ

徵兵法

●閣令第六號(明治二十二年三月二十七日各官廳)  
明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ乞フ可シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間ヨリ起算ス豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

●參照○例第五十六條乃至第五十九條

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ戶主ニ非ラサル者ハ其戶主ヨリ本籍ノ市

○現役中ニハ兵籍ニ編入セラレタル陸海軍生徒ヲ含有ス

○寄留地應徵ハ本人ヨリ出願スルモ其ノ主場合ニ依リ其主場合ニ願スルモ出願スルコトハ互ニ其寄留地ニ於テ應徵出願スルコトヲ許サレシム

町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

●參照○令第三十條同第三十二條○例第二十三條

●海軍省軍務局長通牒(明治二十二年三月六日各府縣)

本年一月徵兵令改正相成候處海軍生徒及海軍工夫ハ常備兵籍ニ編入サレタルモノニ有之又東京商船學校函館商船學校生徒ハ卒業ノ上ハ海軍豫備員ニ充ツヘキ者ニ付海軍生徒ニ準セラレ候條爲御心得此旨及御通牒候也

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

●參照○例第六十三條同第七十條

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

●參照○細則第三十九條(例第四十七條ノ部ニ出ツ)



○抽籤ノ法ニ依リ  
スニテ徵集セラル  
ハ其裁判有罪ト  
確定ノ者ニ限リ

○逃亡トハ有心故  
造シテ其跡ヲ消  
滅スルモ其意ナク  
失踪トハ其意ナク  
シテ家出シテ行  
術知レサルモノナ  
ク但失踪ハ最終  
ノ音信アリタル日  
ヨリ起算ス  
○其ハ戸籍ニ  
登記ノ日ヨリ起算  
ス

○令第二十五條ノ  
届出ヲ爲サハルモ  
ノハ戸籍ニ登録ナ  
キ無籍者ト雖モ本  
條ノ裁判ヲ受ケヘ  
キモノトス

徵兵法

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐  
偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク  
身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

●参照○例第十五條及第四十三條乃至第四十六條○細則第十五條例第  
三十一條ノ部同第二十三條例第三十四條  
ニ出ツ

第二十九條 現役年期ノ計算ハ総テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ  
起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨ  
リ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑  
ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑  
期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サル者及正當ノ事故ナク身體ノ  
検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

●参照○令第二十八條同第四十六條末項

○施行ハ一月二十  
二日

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀  
傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以  
下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

●参照○令第二十八條

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届  
出期限ハ明治二十二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣  
並東京府管下小笠原島ニハ當分之ヲ施行セス

●参照○例第七十條同第七十一條

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間  
戸長ノコト、ス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ



本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

●參照○舊令第十一條年齡滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム  
其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但シ常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

●參照○舊令第十七條左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵

○七箇年ハ道廳ノ年ヨリ起算シ第八年ヨリ徵集事務終結ナリテ分界トス第三十七條第三十八條又同

集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ病疾ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齡滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

●參照○新令第四十條同第四十六條

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

●參考○舊令第十八條第二項官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者







校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認メタルト同等ノ學校ニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六箇年以内徵集ヲ猶豫ス

● 參照○新令第十一條同第四十六條

● 法律第八號明治二十二年三月六日

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分ノヘシ

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服

セシム

● 參照○舊令第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一箇年間ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス  
補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民

兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

● 參照○舊令第三十一條令第三十九條ノ部ニ出ツ○舊令第三十二條、第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七箇年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六箇年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス  
● 舊令第十八條左ニ掲シテ者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス○第一項改正ノ職ニ在ル者令第三十七條ノ部ニ出ツ○第二項令第三十九條ノ部ニ出ツ○第三項令第三十九條ノ部ニ出ツ○第四項陸海軍生徒海軍工夫○第五項身幹未タ定尺ニ滿タサル者○第六項疾病或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者○第七項令第三十八條ノ部ニ出ツ○第八項禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者○第九項公權停止中ノ者●舊令第二十一條令第三十八條ノ部ニ出ツ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免

役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵トナリタルモノ、服役期限ハ

同令第三條及第四條ニ依ル

○明治二十二年ノ適齡者ニシテ前年師範學校ヲ卒業シテ期ニ屬ス  
○入營後疾病其他ノ事故ニテ舊令ニ依リ第一豫備徵員トナリタル者ハ直ニ國民兵ニ編入セラル

○新令發布前免役若クハ猶豫ノ資格ヲ失ヒタルモノト雖モ徵集セラレトコトナシ



● 参照○舊令第三條 常備兵役ハ別チテ現役及豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス○舊令第四條、後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

● 参照○新令第三條同第四條

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市長村長ニ届出可シ前項ノ届出ヲ爲サル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

● 参照○舊令第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ四月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後十一月廿日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十

歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス○舊令第三十六條、第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年十一月二十一日以後十二月三十一日迄ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但四月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但四月十六日以後十一月二十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ〔本條ノ各條ハ令第三十一條、同第三十八條、同第四十一條、同第四十三條ノ部出ツ〕

● 陸軍省達甲第四十二號〔明治十八年九月二十六日 府縣ノ三縣ヲ除ク〕 正當ノ故ナク徵集ニ應ヒス若シハ徵集ニ洩レ年齡ヲ超過シ發覺ノモノハ其時々當省へ經伺ノ上處分致來候處自今年齡滿四十歳迄ハ經伺ヲ要セス徵集スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事



徵兵事務條例施行細則條項索引

(本則、明治二十二年二月二十八日陸軍省令第一號)

● 第一條	● 第二條	● 第三條	● 第四條	● 第五條	● 第六條	● 第七條	● 第八條	● 第九條	● 第十條	● 第十一條	● 第十二條	● 第十三條	● 第十四條	● 第十五條	● 第十六條	● 第十七條	● 第十八條	● 第十九條	● 第二十條	● 第二十一條	● 第二十二條	● 第二十三條	● 第二十四條	● 第二十五條	● 第二十六條	● 第二十七條	● 第二十八條	● 第二十九條	● 第三十條	● 第三十一條	● 第三十二條	● 第三十三條	● 第三十四條	● 第三十五條	● 第三十六條	● 第三十七條	● 第三十八條	● 第三十九條	● 第四十條	● 第四十一條	● 第四十二條	● 第四十三條	● 第四十四條	● 第四十五條	● 第四十六條	● 第四十七條	● 第四十八條	● 第四十九條	● 第五十條	● 第五十一條	● 第五十二條	● 第五十三條	● 第五十四條	● 第五十五條	● 第五十六條	● 第五十七條	● 第五十八條	● 第五十九條	● 第六十條	● 第六十一條	● 第六十二條	● 第六十三條	● 第六十四條	● 第六十五條	● 第六十六條	● 第六十七條	● 第六十八條	● 第六十九條	● 第七十條	● 第七十一條	● 第七十二條	● 第七十三條	● 第七十四條	● 第七十五條	● 第七十六條	● 第七十七條	● 第七十八條	● 第七十九條	● 第八十條	● 第八十一條	● 第八十二條	● 第八十三條	● 第八十四條	● 第八十五條	● 第八十六條	● 第八十七條	● 第八十八條	● 第八十九條	● 第九十條	● 第九十一條	● 第九十二條	● 第九十三條	● 第九十四條	● 第九十五條	● 第九十六條	● 第九十七條	● 第九十八條	● 第九十九條	● 第一百條
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------

徵兵事務條例

(勅令第十三號 明治二十二年二月二十五日)

第一章

徵兵區

- 第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ
- 第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ
- 第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス
  - 一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス
  - 數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島廳ヲ置クモノ亦同シ

● 勅令第六十四號(明治二十二年五月八日) ○ 徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ徵募區ト爲ス ○ 徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ ○ 東京市京都市大阪市ニ於テハ市徵兵參事員ヲ置カス區ニ徵兵參事員ヲ置キ市徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム其人員選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ市徵兵參事員ニ同シ區徵兵參事員ノ選舉月日及選舉開會並投票函閉鎖ノ時刻ハ明治二十二年ニ



○他ノ大隊區又ハ  
 補充兵ハ滿  
 期ヲ滿ルニ至  
 大隊區ノ兵籍ニ屬  
 ス

備兵規則

限リ府知事ヨリ選舉開會五日以前ニ告示スルコトヲ得

●參照○例第七十三條

第四條 常備歩兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄二大隊區ヨリ徵集ス  
 ルヲ例トシ不足スルトキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵  
 員ハ其師管ヨリ徵集ス

近衛歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨ  
 リ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

●陸軍省令第十一號(明治二十二年五月十一日)○徵兵事務條例第四條ニ依リ歩兵聯隊  
 ノ兵員ヲ徵集ス可キ聯合大隊區左ノ通定ム

歩兵第一聯隊	麻布大隊區	橫濱大隊區
歩兵第十五聯隊	高崎大隊區	長野大隊區
歩兵第二聯隊	佐倉大隊區	水戸大隊區
歩兵第三聯隊	本郷大隊區	宇都宮大隊區

歩兵第四聯隊	仙臺大隊區	福島大隊區
歩兵第十六聯隊	新發田大隊區	柏崎大隊區
歩兵第五聯隊	青森大隊區	盛岡大隊區
歩兵第十七聯隊	秋田大隊區	山形大隊區
歩兵第六聯隊	名古屋大隊區	津大隊區
歩兵第十八聯隊	豊橋大隊區	静岡大隊區
歩兵第七聯隊	金澤大隊區	富山大隊區
歩兵第十九聯隊	岐阜大隊區	福井大隊區
歩兵第八聯隊	大阪大隊區	和歌山大隊區
歩兵第九聯隊	大津大隊區	京都大隊區
歩兵第十聯隊	姫路大隊區	岡山大隊區
歩兵第二十聯隊	神戸大隊區	宮津大隊區
歩兵第十一聯隊	廣島大隊區	山口大隊區
歩兵第十一聯隊	尾ノ道大隊區	松江大隊區
歩兵第十二聯隊	丸龜大隊區	徳島大隊區
歩兵第十二聯隊	松山大隊區	高知大隊區
歩兵第十三聯隊	熊本大隊區	宮崎大隊區



歩兵第廿三聯隊	八代大隊區	鹿兒島大隊區
歩兵第十四聯隊	小倉大隊區	佐賀大隊區
歩兵第廿四聯隊	福岡大隊區	長崎大隊區

● 參照○令第八條○細則第十四條〔例第二十一條〕

● 參考○警備隊條例〔明治十九年十一月廿日〕勅令第七十五號〔第三條〕拔萃〔第三條〕警備隊ノ兵卒

ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎年兩度ニ其半數宛ヲ入營セシメ在營一箇年ニシテ歸休ヲ命ス〔其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ〕○第四條警備隊兵卒中上等兵ノ任ニ堪フ可キ者及上等兵ハ志願ニ依リ尙ホ一箇年間在營スルコトヲ得〔上等兵中下士ノ任ニ堪フ可キ者ハ志願ニ依リ現役期限滿ツル迄在營スルコトヲ得〕○第五條警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ニシテ在營一箇年ヲ經過シタルモノ、中ヨリ其任ニ堪フ可キ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス但時宜ニ依リ他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得〔其上等兵ヨリ下士ニ任シタル者ハ現役期限滿ツル迄在營セシム但現役滿期後ハ陸軍現役下士上等兵再服役條例ニ依ル〕

## 第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管內府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管內府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管內府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管內府縣徵募事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區內徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區內徵募準備事務ヲ執行ス

● 參照○例第二十七條、第二十八條



●明治二十二年勅令第六十四號〔例第三條ノ部ニ出ツ〕

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一二三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

●參照○例第十六條

●明治二十二年勅令第六十四號〔例第三條ノ部ニ出ツ〕

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣會常置委員ノ互撰ヲ以テ之ヲ定ム  
第十二條 郡市島嶼徵兵參事員ハ其郡市島嶼内ノ撰舉ヲ以テ之ヲ定ム  
郡市島嶼徵兵參事員ノ撰舉人被撰舉人資格撰舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被撰人ハ其郡市島嶼内ニ現住ノ者ニ限ル

第十三條 府縣徵兵參事員及郡市島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得

○參事員ノ選舉ハ  
徵募區ヲ以テ選舉ハ  
トス  
ハ其徵募區内ニ本  
籍ヲ定メ現住スル  
モノトス

○參事員ノ意見ハ  
一致ノ決議ヲ以テ  
具申スルモノトス  
然レモ互ニ意見ヲ  
異ニスルトキハ各  
自ニ之ヲ具申ス

○地方徵兵醫員ハ  
一徵募區毎ニ採用  
スヘキ旨ニテ  
一大隊區包括内ニ  
四名ヲ採用シ各徵  
募區ヲ通シテ巡回  
セシムルコトヲ得

ス

第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管内徵兵身體檢査ノ事務ヲ掌リ陸軍一二三等軍醫ハ專ラ身體ノ檢査ニ從事ス

●參照○例第十條

第十五條 府縣郡市及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

●參照○例第十條○細則第十五條〔例第三十一條ノ部ニ出ツ〕

第十六條 第十條ニ掲クル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵署事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名嶋廳附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員トス

●陸軍省訓令甲第四號〔明治二十二年三月十八日 北海道廳、府縣ヲ除ク〕



徵兵事務條例第十六條ノ大隊區又ハ警備隊區徵兵署事務員タル地方徵兵醫員ハ一徵募區ニ四名ヲ採用ス可シ

●明治二十二年勅令第六十四號（例第三條ノ部ニ出ツ）

第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記嶋廳附府縣屬及郡市書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス

第十八條 地方徵兵委員ハ府縣知事ノ撰ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受ケ身體檢査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集スヘキ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

●細則第十四條大隊區ニ於テ師團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能

ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキハ他ノ最寄二個ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル（參照例第四條）

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較

シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ嶋司又ハ郡長ニ差出シ嶋司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ  
市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

●細則第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ







署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク  
土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

●細則第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到着ノ上之ヲ開設ス可シ  
徵兵検査所ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官豫メ旅管徵兵官ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一個所概テ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ島司郡市長ハ検査ノ日時徵兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

●細則第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人

員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

●細則第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ其徵募区内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引繼メ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム可シ

●參照〇例第六十四條

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

●細則第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フキハ島廳附府縣屬郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出ス可シ

體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス

●細則第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルト



○志願ハ其年ノ適齡者ニ限ルモノトス

○抽籤總代人ハ壯丁ト否トヲ問ハサルモノトス

キハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ  
●細則第八條 身體検査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スル者アルキハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添へ旅管徵兵官ニ具申ス可シ  
其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

●細則第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ(參照○例第三十四條末項)

●細則第十六條 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ徵集猶豫ノ期限間身體ノ検査ヲ行ハス

●細則第十七條 疾病傷病又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所若クハ旅管徵兵署ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷病ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ(參照○例第六十四條)

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事

ヲ監督シ兵種ノ撰定ニ任ス

●細則第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
  - 二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者
  - 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
  - 四 工兵ハ諸職工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ膂力アル者
  - 五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者
  - 六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ其職ニ從事セシ者
- 近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ

●細則第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選フ可シ

- 一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者
- 二 瀛車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者



三 現ニ前項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從事セシ者

四 舟夫

五 漁夫

職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ選フ可シ

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

○種類トハ近衛師團海軍諸兵ノ種別ヲ云フ

●細則第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス

●參照○例第四十一條第四十二條

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

●細則第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附録第二様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長

○願ヲ許可セサル裁決書ヲ附與シタルトキハ受領證ヲ徵シ置クモノトス

チシテ本人ニ附與セシム可シ  
徵兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

●參照○例第四十一條第四十二條

第三十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出

ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

○人員ノ報告書ハ第八様式ノ二ニ準テ入隊ノ届出アル兵士ノ名簿ニ其事由ヲ朱記シ置クヘキモノトス



●細則第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ

止マサル者及同令第二十八條ニ當ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員ヲシテ其當否ヲ審議セシメ之ニ意見書ヲ付シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

●細則第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ

他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

●參照○例第三十六條○陸軍省訓令甲第三號第三項〔例第二十三條ノ部ニ出ツ〕

### 第五章 徵募

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管內府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

●細則第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到着ノ上之ヲ開設ス可シ

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達ス可シ

府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體檢査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分テ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人ヲ爲スモノトス  
抽籤總代人ハ籤丁ノ撰ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

●細則第十九條 抽籤施行ニ先テ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分テ籤札ヲ作ル可シ  
籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應ジ第一番ヨリ起スヲ例トス然レモ抽籤

○籤札ハ島司郡市長ニ於テ作ルヘキモノトス



○籤丁名簿ハ島司  
郡市長ニ於テ作ル  
ヘキモノトス  
札及籤丁名簿ノ支  
辨スヘキモノトス

- ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附着シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ
- 細則第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ旅管徵兵委員大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ島廳附府縣屬郡市書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤惣代人ニ之ヲ抽カシム
- 細則第二十二條 抽籤惣代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其抽札ヲ島廳附府縣屬又ハ郡市書記ニ渡シ島廳附府縣屬郡市書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ截テ切り惣代人ニ交附ス可シ
- 細則第二十三條 検査合格者ハ左ニ掲ケル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徵員ニ編入ス
- 一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者（二人以上ナルトキハ年齢ノ順序ニ從フ第二項第三項第五項第六項亦同シ）
- 二 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスニテ徵集スル者
- 三 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者

○次年ニ於テ徵集  
セラルトキハ更  
クニ身体ノ検査ヲ受  
ケヘキモノトス

○抽籤名簿ハ新  
種類毎ニ冊トシテ  
シ郡市町村ノ名ヲ  
書シ郡市町村ノ名  
ノ頭ニ記シ且抽籤  
ノ法ニ依リシ及現  
徵集スル者ハ其由  
志願者ハ其由

- 四 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者（徵集ノ順序ニ從フ第七項亦同シ）
- 五 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスニテ徵集スル者
- 七 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者
- 細則第二十九條 検査後抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ
- 其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徵集ス
- 参照○細則第九條（例第二十六條ノ部ニ出ツ）

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

- 細則第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一貫ノ番號ヲ記シ置キ總代人ノ抽ク毎ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ新



兵徵募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ  
差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿免  
役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

●細則第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徵員名簿免役名  
簿及國民兵編入名簿ハ徵兵檢査名簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分チ冊尾  
ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

●細則第二十六條 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿  
及豫備徵員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ

●參照〇例第三十一條第三十八條第四十一條第四十二條

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證  
書ヲ附與ス

●細則第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附錄第四第五  
第六第七樣式ニ依リ新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書  
ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長チ  
テ本人ニ附與セム可シ

○國民兵編入願ヲ  
許可セサル者ニ  
對シテハ條二  
并令第二十八條ニ  
依リ徵集スヘキ裁  
決書ヲ附與シタル  
シトキハ受領證ヲ  
シテ本人ニ附與ス

○本條ノ取扱ハ旅  
團長府縣書記官島  
國長市長ノ定ムル  
所ニ依ル

徵兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ  
裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同令第二十八條ニ依リ徵集スル者ニハ別ニ  
其裁決書ヲ作り前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

●細則第四十四條 新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ  
失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵  
兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交附シ抽籤名簿及  
豫備徵員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致  
ス可シ

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

●細則第二十七條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附錄第八樣式ニ依リ  
之ヲ作ル可シ

●參照〇例第三十六條

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣







警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

●細則第三十三條 新兵入營ノ期ニ先チ大隊區司令官ニ於テ入營地若シハ近衛海軍新兵集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

●細則第三十六條 近衛海軍新兵入營ノ期ニ先チ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ

●細則第三十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年回ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス

●勅令第三十七號〔明治二十二年三月十九日〕○陸軍輜重輸卒ノ現役ハ一箇年トシ三期ニ分チ入營セシム其第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス○疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシム其補缺ハ次期入營ス可キ者ヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備徵員ヲ以テ補缺ス  
●陸軍省令第七號〔明治二十二年三月二十五日〕○明治二十年二月陸軍省令第三號警備隊兵卒入營前ノ取扱左ノ通改正ス

一 警備隊兵卒ノ入營期限ハ左ノ如シ

第一次 十二月一日  
第二次 六月一日

- 一 疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ノ補欠ハ第一次ニ在テハ十二月十日迄ニ第二次ニ在テハ六月十日迄ニ入營セシム
- 一 前項ノ事故ニ由リ第一次ニ入營シ難キ者ハ第二次ニ第二次ニ入營シ難キ者ハ次年徵募ノ新兵同時ニ入營セシム
- 一 前諸項ニ掲クルモノ、外入營前ノ取扱ハ徵兵事務條例、徵兵事務條例施行細則ニ依ル

●參照○令第二十九條○例第六十五條

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ

召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引卒セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引卒セシムルヲ要セス  
近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引卒セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書

○召集地迄ハ各自  
單行トス



記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

●細則第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ

- 新兵五人以上五十人迄 下士若クハ上等兵海軍ハ一等卒一名兵卒一名乃至三名
- 新兵五十一人以上百五十人迄 中少尉海軍ニ在テハ大尉一名下士若クハ上等兵名乃至二名兵卒四名乃至六名
- 新兵百五十一人以上三百人迄 中少尉二名下士若クハ上等兵二名乃至三名兵卒八名乃至十名
- 新兵三百一人以上 大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃至五名兵卒十名乃至十五名

●細則第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

- 第一師管ハ東京、横須賀
- 第二師管ハ仙臺、白河
- 第三師管ハ四日市、沼津
- 第四師管ハ神戸
- 第五師管ハ廣島、吳、九龜
- 第六師管ハ長崎、佐世保、大分

●細則第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不

○延期ノ願濟ハ直ニ司令官ニ差出スヘキモノトス  
病ニハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘキモノトス

參ノ者アルトキハ新兵引卒ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各隊長又ハ近衛、海軍新兵受領委員ニ其由ヲ通知ス可シ

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ

延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

●細則第四十二條 新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ隊籍ヲ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ通牒ス可シ

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十

二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認メタル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊



區内他ノ募徵區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

●細則第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ

第五十二條 新兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

●細則第四十條 新兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ

●參照○例第六十五條

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長

○轉籍ニハ入夫養子モ含有ス○届書ニハ新兵證書ヲ添付スヘキモノトス○同町村内ノ移動ハ届出ツルニ及ハサルモノトス

○入營前ニ係ル異動ハ細則第四十一條ニ依リ本則令ハ適用ス

ニ差出ス可シ

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但

監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●細則第四十一條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官ヨリ旅團長ニ報告ス可シ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛都督若クハ鎮守府司令長官ニ通牒ス可シ

●海軍省訓令第五十號(明治二十年五月廿三日)北海道廳府縣○徵兵令ニ據リ徵集シタル

海軍現役兵ニシテ身上ニ異動ヲ生スルトキハ入營前後ノ別ナク戸主又ハ親族ノ者ヨリ届出郡區長戸長奥書証印ヲ横須賀鎮守府へ届出ヘシ

●細則第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫



備徵員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第八章 豫備徵員

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從フ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

○轉籍ニハ入夫養子モ有ス  
○届書ニハ豫備徵員證書ヲ添付スヘキモノトス  
○同町村内ノ移ハサルモノトス

本條ノ届出ヲ爲サル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●細則第四十三條〔例第五十四條ノ部ニ出ツ〕

第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスシテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

本條ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九章 雜則

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服センヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ

第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村



○寄留地ニ於テ應  
隊ノ者ハ寄留地大  
隊ノ者ハ寄留地大  
スヘキモノトス但  
令第二十條ニ當ル  
者ノ保證書ハ本籍  
除シテ全月寄留  
シタル者モタ  
ルヘシトモ治ニ  
二年中ニ師範學校  
ハ卒業スルニ及  
ハ出願スルニ及  
トス

○一月三十一日  
令第二十條ニ當  
モノニシテ他ノ  
應ニ於テ徵集  
アルトキハ實際  
ハ上差支ナキ限  
得テ後止ムコト  
○寄留地ニ應  
ル事ナシトシ  
又ハ其他ノ徵  
ニ於テ徵集ニ  
ル者アルトキ  
シ

長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其年ノ徵集ニ應  
ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校  
長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三  
月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ  
其願書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス

●參照○例第七十四條

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セ  
ント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出  
可シ  
島司又ハ郡市長ニ差出願書ニハ本籍地町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キ  
モノトス

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添へ本人寄留地

ノ島司郡市長ニ通知ス可シ

●細則第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集  
ニ應スヘキモノニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二十一  
條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍ニ  
復歸シ又ハ他ノ徵募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徵集ニ應  
度キ旨一月三十一日迄ニ願出ルトキハ島司郡市長之ヲ許可スルコ  
トヲ待

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫  
名簿ヲ添へ新住地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ但寄留替ノ者ハ  
本籍ノ島司郡市長ニモ通知ス可シ

●參照○例第七十四條

第六十四條 疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一  
年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ  
届出可シ其疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ  
島司又ハ郡市長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノ



トス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

● 参照 ○ 細則第五條〔例第二十五條〕 ○ 細則第十七條〔例第二十六條〕

第六十五條 疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ其届書ニハ市町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス  
本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

● 参照 ○ 例第四十七條第五十二條

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費壯丁及抽籤總代人ノ旅費新兵入營ノ旅費府縣郡市島嶼徵兵參事員ノ手當金旅費地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

● 内務省令第六號〔明治二十二年四月廿四日內務大臣連名〕 北海道廳、府縣〔沖繩縣ヲ除ク〕

徵兵參事員手當金并旅費支給規則左ノ通相定ム  
支給規則

- 一 手當金ハ府縣郡市島嶼ヲ問ハス出務日數ニ應シ一日金壹圓ヲ支給ス
  - 一 旅費ハ左表ノ金額ヲ給ス其支給法ハ明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則ニ據ル
- 但地方ノ狀況ニ依リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルヲ得

旅 費 額

汽 車 賃	汽 船 賃	車 馬 賃	日 當
一哩 毎ニ	一海里 毎ニ	一里 毎ニ	一日 毎ニ
金 六 錢	金 六 錢	金 八 錢	金 七 拾 錢

● 参照 ○ 内國旅費規則拔萃第三條 汽車賃ハ汽車旅行、汽船賃ハ汽船旅行、車馬賃ハ陸路旅行、日當ハ宿泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス ○ 第七條 日當ハ陸路六里未滿、汽車十哩未滿及汽船十海







● 細則第三十二條(例第二十三條)  
 ● 參照○令第三十三條

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ  
 町村長ノ職務ハ町村制ヲ實施スル迄ハ戶長ニ於テ行フ可シ  
 第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル  
 第七十四條 明治二十二年ニ限り第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及  
 第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限  
 ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

(徵兵事務條例施行細則第一條)  
 第一樣式 (壯丁名簿)

川紙美濃紙半葉

○ハ朱書

明 治 何 年 壯 丁 名 簿		住 所	兵 種	番 號	假 決	終 決	備 考	體 格
府(縣) 郡(市) 町(村)		何兵何番	何兵何番	○明治何年令第十八條ニ當リ徵集延 期○ ○ ○	○近衛現役(豫備役員)	○年月日何罪ニ依リ何刑何年ニ處セラレ 戶主或ハ本人家屋ヲ有ス○戶主或ハ本人地租何圓ヲ納ム	○年月日何罪ニ依リ何刑何年ニ處セラレ ○賭博犯ニ由リ懲罰何年ニ處セラレ	○身 尺 ○身 尺 ○身 尺 ○身 尺
身 業 分	氏 名	妻	子	○華(士)族(平民)何職	○某長(次)男(兄)弟(月主)何某	○何府(縣)身分何某長(次)女某	○長男 ○長女 ○某某	○辨 視 ○色 力 ○力 力



一 職業ハ現ニ從事スル所ノ職業ヲ記シ兼業ノ者ハ之ヲ併記ス假令ハ「農兼木工」「商兼鍛工」等ノ如シ但  
 醫師僧侶ハ職業ノ部ニ官吏教員ハ備考區畫中ニ記シ職業ナキモノハ無職業ト記スヘシ  
 二 寄留地ニ於テ徵集ニ應スル者ハ住所ノ區畫ニ本籍地ト寄留地ヲ併記ス可シ  
 三 借入區畫中刑ハ禁錮以上ノ者ヲ記ス可シ  
 四 兵種番號假決終決體格ノ區畫ニハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ於テ其事項ヲ  
 記入スルモノトス

(徵兵事務條例施行細則第十條)

第二樣式

(徵集延期「猶豫」証書)

用紙厚紙

表 川田川田

右徵兵令第何條ニ依リ徵集ヲ延期(猶豫)ス

府(縣)郡(市)町(村) 氏 名

年 月 日

向 大隊區徵兵署

印

凡曲尺五寸

裏

本證書ハ之ヲ附與シタル日ヨリ翌年ノ徵兵檢査迄其効チ有ス  
ルモノトス

本證書用紙ハ島廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ

(徵兵事務條例施行細則第二十條)

第三樣式

(籤札) 用紙厚紙

近衛(海軍)

甲(乙) 種 何兵第何番

籤札用紙ハ島廳郡市役所ニ於テ調製スヘシ



(徵兵事務條例施行細則第二十四條第五第六第七條式同シ)

第四樣式 (新兵證書)

用紙厚紙

第何旅管何大隊區  
府(縣)郡(市)町(村)住  
何兵第何番 氏 名

表

右現役兵ニ徵募シ何兵第何聯(大)隊ニ編入ス

年 月 日

第何旅管徵兵署

印

凡曲尺六寸

凡曲尺六寸

新兵入營前ノ心得

- 一新兵入營期日ハ十二月一日トス
- 一警備隊諸兵ノ入營期限ハ第一次ハ十二月一日第二次ハ六月一日トス
- 一輜重輸卒ノ入營期限ハ第一次ハ十二月一日第二次ハ四月一日第三次ハ八月一日トス
- 一入營前轉籍スル者ハ豫メ其由ヲ監視區長ニ届出テ監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地ノ監視區長ニ届出可シ其届出ヲ爲サ、ルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル、モノトス
- 一疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス其届出ヲ爲サ、ルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル、モノトス
- 一入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ其届出ヲ爲サ、ルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル、モノトス
- 一故ナク入營ノ期ニ後レ平時ニ在テ十日ヲ過クル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處セラル、モノトス
- 一此證書ハ入營迄(事故ニ由リ其年入營セサル者ハ翌年入營迄)其効ヲ有スルモノトス
- 一此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求スヘシ

- 一 近衛海軍ニ在テハ表面ノ右以下ヲ「右近衛現役兵ニ徵募ス」右海軍現役兵ニ徵募ス」ト記ス可シ
- 一 二本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ



第五樣式

(豫備徵員證書)

用紙厚紙

第何旅管何大隊區  
 府(縣)郡(市)町(村)住  
 何兵第何番 氏 名

右豫備徵員ニ徵募ス

年 月 日

第何旅管徵兵署

印

凡曲尺六寸

表

裏

豫備徵員ノ心得

- 一 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年ノ新兵缺員ヲ生シタルトキ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集セララル、モノトス但新兵缺員ノ爲メ徵集セララル、ハ十二月一日ヨリ同月三十一日迄ノ間トス
- 一 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出テ監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十日以内ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ其届出ヲ爲サ、ルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セララル、モノトス
- 一 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスニテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其以後ニ在テ往先ヲ詳ニ監視區長ニ届出ヘシ其復歸シタルトキ亦同シ以上ノ成規ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セララル、モノトス
- 一 故ナク入營ノ期ニ後レ平時ニ在テ十日ヲ過クル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處セララル、モノトス
- 一 新兵ノ補缺トシテ徵集ヲ命セラレサル者ハ徵募年ノ十二月一日ヨリ起算シ滿一ケ年ノ後ハ別ニ命ナクシテ國民兵ニ編入セラレタルモノトス
- 一 此證書ハ國民兵役ヲ終ル迄其効ヲ有スルモノトス
- 一 此證書ヲ失ヒ若シハ損傷シタルトキハ新タニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ
- 一 近衛海軍ニ在テハ表面右以下ヲ「右近衛豫備徵員ニ徵募ス」右海軍豫備徵員ニ徵募スニ記ス可シ
- 一 本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製スヘシ



第六樣式 (國民兵證書)

用紙厚紙

第何旅管何大隊區  
府(縣)郡(市)町(村)住  
氏 名

右徵兵令第何條ニ依リ國民兵ニ編入ス

年 月 日

第何旅管徵兵署

印

凡曲尺六寸

表

裏

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ



第七様式 (免役證書)

用紙厚紙

表

右徵兵令第十七條ニ依リ兵役ヲ免ス

第何<sup>〇</sup>旅管何<sup>〇</sup>大隊區  
府(縣)郡(市)町(村)住

氏

名

年 月 日

第何<sup>〇</sup>旅管徵兵署

印

凡曲尺四寸

凡曲尺六寸

裏

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ







第八様式ノ二(徵兵表)

用紙大判美濃紙

種別	年	齡	徵募人員						現役		計	
			徵員			豫備			小計	志願者		當籤者
			小計	令第廿八條ニ當ル者	令第廿一條ニ當ル者	當籤者	令第廿八條ニ當ル者	令第廿一條ニ當ル者				
		二十歲										
		廿一歲										
		廿二歲										
		廿三歲										
		廿四歲										
		廿五歲										
		廿六歲										
		計										

明治何年 第何旅管徵兵表

其二

- 一 警備隊區アル旅管ニ在テハ大隊區ノ下ニ其區畫ヲ設ク可シ
- 二 北海道ヨリ徵集ニ應シタル者ハ近衛師團及海軍ヲ區別シ現役豫備徵員ヲ分チ其人員ヲ備考區畫ニ記ス可シ
- 三 本表ノ區畫ハ實際ニ就キ適宜増減ス可シ其二表亦同シ

考備	軍		
	員徵		
	卒	雜	工
總計			
計			
計			
計			







陸軍一年志願兵條例施行細則條項索引

(本則ハ明治二十二年三月四日陸軍省令第三號)

細則條項	細則條項	細則條項	細則條項
● 第一條	● 第十三條	● 第二十五條	● 第三十五條
● 第二條	● 第十四條	● 第二十六條	● 第三十四條
● 第三條	● 第十五條	● 第二十七條	● 第三十三條
● 第四條	● 第十六條	● 第二十八條	● 第三十二條
● 第五條	● 第十七條	● 第二十九條	● 第三十一條
● 第六條	● 第十八條	● 第三十條	● 第三十條
● 第七條	● 第十九條	● 第三十一條	● 第二十九條
● 第八條	● 第二十條	● 第三十二條	● 第二十八條
● 第九條	● 第二十一條	● 第三十三條	● 第二十七條
● 第十條	● 第二十二條	● 第三十四條	● 第二十六條
● 第十一條	● 第二十三條	● 第三十五條	● 第二十五條
● 第十二條	● 第二十四條		● 第二十四條

陸軍一年志願兵條例

(勅令第十四號 明治二十二年二月二十五日)

第一條 徵兵令第十一條ニ據リ一箇年間陸軍現役ヲ志願スル者ハ兵種及衛戍地ヲ撰ヒ服役スルコトヲ得但服役中ノ費用官給ヲ受クル者ハ此限ニ在ラス

● 參照○細則第十七條(例第十一條ノ部ニ出ツ)  
 ● 閣令第十一號(明治二十二年三月二十五日)○試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職ノ儘服役スルコトヲ得但服役時日ハ實務練習ノ期限ニ算入セヌ有給者ニハ俸給ヲ給セサルモノトス

第二條 一年志願兵ノ被服裝具彈藥武器及屬具ハ其所屬部隊ヨリ現品ヲ給シ其被服費裝具費彈藥費武器及屬具修理費トシテ金六拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算ヲ爲シ殘金アルトキハ之ヲ還付スル武器及屬具ハ服役滿期ノトキ之ヲ返納セシム

● 細則第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品ハ左ノ如シ  
 一 第一種帽(前立共)



- 二 第二種帽
- 三 絨衣袴
- 四 小倉衣袴
- 五 夏衣袴二着
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手牒
- 十 背籠(屬具共)
- 十一 飯盒
- 十二 水筒

● 細則第三十五條 服役中ノ費用自辨ノ者入隊後禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ疾病傷痍ニ依リ現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シテ殘金ヲ還付ス

● 參照○例第十七條同第三十三條○細則第二十九條(例第二十六條ノ部ニ出ツ)  
**第三條 騎兵トシテ服役スル者ハ馬匹及馬具ヲ貸與シ其馬匹ニ係ル一切ノ費用及馬具修理費トシテ第二條ノ納金ノ外金八拾圓ヲ納メ**

○現役ヲ免シタル者二十歳以上ナルトキハ更ニ徵集ニ應スルコトナシ

シム但服役滿期ノ際精算シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

● 細則第二條 條例第三條ノ馬匹ニ係ル一切ノ費用トシテ納メシムル費目ハ左ノ如シ

- 一 菑秣寢蓐費
- 二 裝鐵剔毛費
- 三 馬療費

● 參照○例第十七條○細則第三十五條(例第二條ノ部ニ出ツ)○例第二十五條末項同第三十三條

**第四條 一年志願兵ハ日給ヲ給セサルモノトス徵兵署檢査所往復旅費及入營退營旅費ハ一切自辨トス**

**第五條 一年志願兵ハ營外ニ居住シ通勤セシメ其居宅及食餌ノ費用ハ本人ノ自辨トス**

若シ品行不正ノ事アルトキハ營内ニ居住セシメ食餌ハ該部隊ヨリ給シ其費用ヲ辨償セシム

● 細則第三條 居宅及食餌自辨ノ者行軍若クハ野外ニ於テ演習ヲ爲



第六條 身元貧困ニシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ服役セシム

一 居宅及食餌ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ被服裝具彈藥武器及屬具ヲ給與ス

二 武器及屬具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ食餌被服裝具彈藥ヲ給與シ營内ニ居住セシム

● 細則第四條 條例第六條第二項ノ武器及屬具ノ修理費ハ金九圓トス

● 參照○細則第十三條〔例第十四條〕○例第十七條

第七條 官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ一年志願兵ノ人員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

● 參考○陸軍省告示第五號〔明治二十二年三月十六日〕

陸軍一年志願兵條例第六條ニ依リ本年官費ヲ以テ服役ヲ許可ス可キ人員左ノ通定ム

備考	第一條 第六例				第二條 第六例					
	工兵	砲兵	騎兵	歩兵	計	工兵	砲兵	騎兵	歩兵	兵種
近衛諸隊ニ於テ服役セシム可キ者ハ第一師管ニ於テ出願ノ者ニ限ル					三九	一	四	二	三二	近衛
					五九	三	六	二	四八	第一師
					五六	二	六	〇	四八	第二師
					五六	二	六	〇	四八	第三師
					五七	三	六	〇	四八	第四師
					五六	二	六	〇	四八	第五師
					五七	三	六	〇	四八	第六師
					三八〇	一六	四〇	四	三二〇	計

第六條第二項ノ者前記ノ定員ニ滿タサルキハ其定員ニ滿ツル迄之ヲ許ス







得○卒業試験ニ及  
第セサルモハ其  
志願消滅ス

徵兵法

● 参照○例第十四條第二項

第十一條 第九條ノ志願者中學術ノ試験ヲ受クヘキ者ハ其人名書ヲ旅團長ヨリ師團長ヲ經テ監軍ニ呈シ監軍ハ之ヲ將校學校監ニ下シ將校學校監ハ之ヲ陸軍將校生徒試験委員ニ下付ス

師團長ハ身體檢査ノ時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ志願者ヲ召集シ其地所在ノ軍醫ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験委員到着ノトキ交付ス

● 細則第八條 條例第十一條第二項ニ依リ師團長ハ身體檢査ノ時日ヲ定ムルト同時ニ檢査所設置ノ場所ヲ定メ府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ其時日及場所ヲ管内ニ告示ス可シ

● 細則第九條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ニシテ身體ノ檢査ヲ爲シタル者ハ陸軍醫官其合格ト不合格トヲ判定シ且不合格者二十歳未満ノ者ヲ除クハ軍醫ニ於テ永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別シ其人名書ニ體格檢査表ヲ添ヘ師團長ニ差出シ師團長ハ之ヲ本人居住地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

● 細則第十條 旅管徵兵官ハ前條ノ書類ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ處分ヲ爲シ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ體格檢査表ヲ大隊區徵兵官ニ送付シ大隊區徵兵官ハ該檢査表ニ依リ徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

● 細則第十一條 條例第十一條第二項及第十二條ノ身體檢査並學術試験ニ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス前項ニ當ル者ハ旅團長ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

● 細則第十七條 身體ノ檢査ニ由リ本人志望ノ兵種ニ適セサルモ他ノ兵種ニ適ス可キ者ハ更ニ他ノ兵種ヲ志願スルコトヲ得

第十二條 陸軍將校生徒試験委員ハ志願者ノ身體檢査ニ合格シタル者ノ學術ヲ試験シ試験書ヲ旅團長ニ送付ス

● 細則第十一條 例第十一條ノ部ニ出ツ

第十三條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ノ試験及合格格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス



●參考○陸軍省告示第六號(明治二十二年三月十九日)  
 明治二十二年陸軍一年志願兵試驗格及合格格例左ノ通定ム  
 但試驗ハ五月十日ヨリ開始ス

明治二十二年陸軍一年志願兵試驗及合格格例

科目	試驗格	各科合格點	合格點
讀書	白文訓讀	十四點	四十三點
作文	真片假名交リ文(記事論說)	三點	
算術	應用	五點	
代數	應用	五點	
平面幾何學	原理或ハ應用	五點	
地理學	筆答或ハ暗射圖(本邦、支那、朝鮮) <small>(新中地理書山田行元撰)</small>	五點	
歷史	本邦、支那、萬國 <small>(萬國史天野爲之著)</small>	三點	

備考	備	點數
	草木、器具、家屋、寫景	三點
	一 學科問題ハ一科目毎ニ一題ヲ與ヘ之ヲ筆答セシム 二 歷史ハ著名ナル事蹟、戰役或ハ人物等ニ就テ問題ヲ與フ 三 科目ノ下括弧中ニ記スル書目ハ受檢者參考ノ爲メニ程度ヲ示スモノトス 四 試驗場ヘ會スルニ字書ハ勿論一切ノ書籍草按ヲ攜帶スルヲ許サス 但要用ノ筆墨硯、白紙、小刀ハ之ヲ持參スルモノトス 五 試驗ハ各科毎ニ點數ヲ與ヘ總點數ニ依リ人員ノ列序ヲ定ム 六 試驗格例中其一科ニ於テ點數合格セサレハ採用セス 七 各科合格滿點ハ二十點トス	

第十四條 旅團長ハ試驗ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ之ヲ本人ニ通知シ其及第者ニハ併セテ認定證書ヲ附與ス

第九條 第二項ノ卒業證書及第十條ノ證明書ヲ所持スル者ハ一般ノ徵兵ト同時ニ身體ノ檢査ヲ爲シ其合格者ニハ認定證書ヲ附與ス但第十條ノ證明書ヲ所持スル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シ



タルトキ之ヲ附與スヘシ

●細則第十二條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附録第七様式ニ依リ作ル可シ

●細則第十三條 官費ヲ以テ服役セシムヘキ者ニハ旅團長附録第八様式ニ依リ官費服役許可狀ヲ作り本人ニ附與ス可シ  
條例第八條ニ依リ次年回シト爲スヘキ者ハ許可狀ノ裏面ニ其由ヲ記載ス可シ

●細則第十五條 條例第十四條ニ依リ身體ノ検査ヲ受ク可キ者ノ氏名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官ニ達シ大隊區司令官ハ之ヲ島司又ハ郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及其場所ヲ管内ニ告示ス可シ

大隊區徴兵署又ハ検査所ニ出頭シ難キ事故アル者ハ願ニ由リ他ノ大隊區徴兵署若クハ検査所若クハ旅管徴兵署ニ於テ身體ノ検査ヲ受クルコトヲ得但許可ヲ受クスシテ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス  
前項但書ニ當ル者ニシテ寄留ノ者ハ大隊區司令官ヨリ本籍地ノ大隊區徴兵官ニ通知ス可シ

○徴集延期ノ處分ヲ受ケタル者ハ翌年更ニ出願スヘキモノトス

●細則第十六條 大隊區徴兵署若クハ検査所ニ於テ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ大隊區司令官合格不合格ヲ區別シ検査報告書ヲ作り之ヲ旅團長ニ差出ス可シ

身體ノ検査ニ合格セサル者二十歳未満ニシテ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ旅管徴兵官免役ノ處分ヲ爲シ其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ大隊區徴兵官徴集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徴兵官又ハ大隊區徴兵官ニ通知ス可シ

●細則第十七條 例第十一條ノ部ニ出ツ

●細則第十八條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ハ旅團長ヨリ自費服役官費服役次年回シ等ヲ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シニ送付シ又其人員ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告ス可シ

●參照○例第十七條同第三十條

第十五條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル人名書ハ旅團長ヨリ大隊區徴兵官ニ送付ス可シ

第十六條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス



●細則第十九條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死  
亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出可シ

●細則第二十條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ムヲ  
得サル事故ヲ生シ十二月一日ヨ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添へ  
入隊ノ延期ヲ旅團長ニ届出可シ  
其事故十二月二十日迄ニ止マシテ入隊セサル者ハ旅團長之ヲ次  
年回トシ聯隊長及本人ニ通知ス可シ

●細則第二十一條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者ヨシテ十二月  
一日ヨ入隊セサル者アルトキハ聯隊長ヨリ其人名ヲ旅團長ニ通知  
ス可シ

●細則第二十二條 條例第三十條及本則第十九條第二十條第二項ニ  
當ル者官費服役者ナルトキハ旅團長ハ條例第八條ニ依リ次年回シ  
ト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ヨ入隊セシムルコトヲ得  
但入隊ヲ命シタルトキハ其人名ヲ聯隊長ニ通知ス可シ  
●參照○例第十八條同第三十條

第十七條 志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ十一月三十日限り第二條

第三條第六條第二項ノ費用ヲ部隊ニ納ム可シ

第十八條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年回リト爲リタルト  
キハ本籍所管大隊區徴兵官ニ届出可シ

●參照○例第八條同第十六條

第十九條 一年志願兵入隊スル時ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同之ヲ部下某中

隊ニ編入シ該中隊長ヲシテ教育ニ任セシム

●細則第二十三條 一年志願兵ハ入隊ノ當日讀法式及宣誓式ヲ行フ  
モノトス

第二十條 一年志願兵軍事學ノ教授ハ聯隊長部下大尉若クハ中尉ノ  
内一名ヲシテ之ヲ掌ラシム

第二十一條 一年志願兵ノ教育及軍事學ノ教授ニ就テハ聯隊長其責  
ニ任スルモノトス

第二十二條 一年志願兵ノ勤務及服裝ハ一般ノ兵卒ト異ナルコトナ



シ但營中雜役ヲ免シ又被服ニ特別ノ徽章ヲ附ス  
室内其他諸物品ノ掃除及馬匹馬具等掃拭ノ爲メ兵卒ヲ使役スルコ  
トヲ得但馬匹馬具等ノ掃拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲スヲ要  
ス

第二十三條 一年志願兵中勤務ニ熟達シ且品行方正ニシテ豫備士官  
ノ教育ヲ授クルニ堪ユ可キト認ムル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇  
月ノ後上等兵トナシ特別ノ教育ヲ授ケ下士ノ勤務ヲ爲サシム

●細則第二十四條 一年志願兵ニ授クル特別教育ノ課程ハ別ニ之ヲ  
定ム

●細則第二十八條 條例第二十三條及第二十六條ニ依リ上等兵及志  
願軍吏生、志願軍醫、志願藥劑生、志願獸醫、志願衛生ト爲シタル者ハ將校集  
會所ニ於テ將校ト會食セシムルユトヲ得

●細則第三十四條 一年志願兵中豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪ヘス  
ト認ムル者ハ下士ト爲スノ教育ヲ授ケ適任ノ者ハ服役滿期ノ際上  
等兵ト爲シ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

居住地トハ入隊地  
ヲ云フ

第二十四條 上等兵ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際聯隊長ハ一年志願  
兵終末試験委員ヲシテ學科及實地上ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シ  
タル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長步兵ハ旅團  
長ヲ經テニ具狀シ認可ヲ受  
ケ終末試験及第證書ヲ授與シ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス終末  
試験ニ落第シタル者ハ二等軍曹ニ任シ若クハ下士適任證書ヲ附與  
シ豫備役ニ編入ス

●細則第三十二條 條例第二十四條第一項第二十八條第一項ニ依リ  
豫備役ニ編入ス可キ者ハ該隊ヨリ其兵籍ヲ本人居住ノ大隊區司令  
部ニ送致シ其他ハ本籍地ノ大隊區司令部ニ送致ス可シ

●細則第三十三條 條例第二十四條及第二十八條ノ一年志願兵終末  
試験及第證書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ作ル可シ

第二十五條 醫學藥學又ハ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル  
者ハ步兵隊ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊砲兵隊又ハ輜  
重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ志願軍吏



生志願軍醫生志願藥劑生又ハ志願獸醫生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志望ノ者ハ入隊ノ際學校ノ卒業證書ヲ以テ其由ヲ申立可シ

獸醫學卒業證書ヲ所持シ志願獸醫生タラシコトヲ志望スル者ハ第三條ノ納金ヲ爲スニ及ハス

●細則第二十五條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生、志願軍醫生、志願藥劑生、志願獸醫生トナリ各専門ノ勤務練習ヲ志望スル者ハ該隊長ヨリ各自ノ卒業證書寫ヲ添ヘ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ通牒シ監督部長軍醫長獸醫長ハ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ該隊長ヲ經由シ之ヲ命ス可シ

●細則第二十六條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生ト爲シタル者ハ近衛又ハ師團監督部ニ志願藥劑生ト爲シタル者ハ衛戍病院ニ派遣シ勤務ヲ練習セシム

●細則第二十七條 志願軍吏生ノ教育ハ近衛又ハ師團監督部長志願軍醫生ノ教育ハ該隊二等軍醫正志願藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長志願獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫各其責ニ任スルモノトス

第二十六條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ヲ命スルニハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長獸醫長ヨリ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ請フ可シ

●細則第二十八條 〔例第二十三條〕  
〔本部ニ出ツ〕 志願軍吏生、志願軍醫生、志願藥劑生、志願獸醫生ト爲シタル者ハ武器及屬具ヲ返納セシメ更ニ徒卒刀ヲ給ス可シ

第二十七條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十八條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長一年志願兵終末試験委員ヲシテ實地ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス



終末試験ニ落第シタル者ハ曹長若クハ軍曹相當官ニ任シ豫備役ニ編入ス

●細則第三十二條同第三十三條(例第二十四條ノ部ニ出ツ)

第二十九條 近衛都督又ハ師團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲ組織シ及其試験ノ方法ヲ定ム

●細則第三十條 一年志願兵滿期ニ先テ近衛都督又ハ師團長ハ條例第二十九條ノ終末試験委員ヲ組織ス可シ

●細則第三十一條 終末試験委員ハ各隊各部毎ニ上長官一名士官若干名ヲ以テ組織ス可シ但獸醫部ニ在テハ士官若干名ヲ以テ組織ス可シ

第三十條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年ノ十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

●参照○細則第二十二條(例第十六條ノ部ニ出ツ)

第三十一條 戰時若クハ事變ニ際スルトキハ一年志願兵ト雖モ一般

ノ兵卒ト同シク服役セシム

附 則

第三十二條 明治二十二年ニ限り第九條ノ願出期限ハ三月十五日迄トス

第三十三條 第二條第三條ノ納金額ニ變更ヲ要スルトキハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム



(陸軍一年志願兵條例施行細則第五條 第四樣式)

第一樣式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ服役中ノ費用全部ヲ自辨シ何兵何聯「大隊」又ハ何聯「大」隊ニ於テ一箇年間現役ニ服シ度志願ニ候間學術ノ試験ヲ受ク可キ者ハ「學術」  
度別紙某學校卒業證(某學校長ノ證明書)戶主家族ノ承認書相添此段奉願候也

年 月 日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

華(士)族(平民)

氏

名 印

年 月 日 生

旅團長爵氏名殿

近衛隊志願ノ者ハ本文何兵ノ上ニ近衛ノ二字ヲ記入ス可シ



一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役中ノ費用全部自辨ス可キ資力無之候ニ付居宅及食餌(武器及屬具ノ修理費)ヲ自辨仕候間學術ノ試験ヲ受ク可キモノハ(學術御試験ノ上)其他ノ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書(某學校長ノ證明書)戶主家族ノ承認書相添此段奉願條也

年 月 日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

華(士)族(平民)

氏

名 印

年 月 日 生

旅團長爵氏名殿

第三樣式

一年志願兵服役承認書

右私長男(孫)コテ今般一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可致候也

年 月 日

氏 名

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

戶 主

氏

名 印



第四様式

一年志願兵服役承認書

右私長男(孫)ニテ今般一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役中ノ費用全部自辨ス可キ資力無之候得共居宅及食餌(武器及屬具ノ修理費金何圓)ハ無相違自辨(辨償)可致候也

年 月 日

氏 名

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
戸 主  
氏 名 印

(陸軍一年志願兵條例施行細則第六條第六様式) 第五様式

身元證明書

氏 名

右ハ刑ニ處セラレタルコトナク(何々ニ依リ罰金何圓ニ處セラレタルコトアリト雖モ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナク)且其戸主本人(何々)記名額面何千圓ナ有シ是ヨリ生スル潤益年額若干金並何々(無記名)若干ナ有シ其他官廳ヨリ受ケル俸給(何會社)商社ヨリ受ケル給料)年額何千圓(何々)所得年額何千圓)有之候者ニ付一年志願兵服役中ノ費用全部ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年 月 日

府(縣)島司郡(市)長 氏 名 印



第六様式

身元證明書

氏 名

右ハ刑ニ處セラレタルコトナク(何々ニ依リ罰金何圓ニ處セラレタルコトアリト雖モ  
禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナク)且其戸主(本人)何々(記名)額面何百圓ヲ有シ是ヨ  
リ生スル潤益年額若干金(何々)無記名 若干(官廳ヨリ受クル俸給年額若干金(何會社)商  
社)ヨリ受クル給料年額若干金(何々ノ所得年額若干金)アリト雖モ是ニ依リ一家幾口  
ノ生計ヲ立ルモノナレハ居宅及食餌(武器及屬具ノ修備費)ノ外自辨シ能ハサルコトヲ  
證明ス

年 月 日

府(縣)島司郡(市長)氏 名 印

(陸軍一年志願兵條例施行細則第十二條)  
第七様式

用紙厚紙

第 號

府(縣)族籍

氏 名

年月日生

右陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定シ何兵何聯(大隊ニ於テ服役スルコト  
ヲ許可ス(命ス))

年 月 日

職 銜 位 勳 氏

名 印

欄花紋



(陸軍一年志願兵條例施行細則第十三條)  
第八樣式

用紙厚紙

第 號

府(縣)族籍 氏 名

年月日生

右居室及食餌(武器及屬具ノ修理費)ノ外官費ヲ以テ陸軍一年志願兵トシテ服役スルコトヲ許可ス

年 月 日

職 爵 氏 名 印

(陸軍一年志願兵條例施行細則第三十三條)  
第九樣式

七寸八分

用紙烏ノ子紙

五寸六分

第 號

陸軍歩兵上等兵 氏 名

右一年志願兵終末試験ニ及第ス

年 月 日

職位勳氏名 印



陸軍豫備後備將校補充條例

(勅令第六十九號 明治二十二年五月二十二日)

第一條 陸軍豫備將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一 一年志願兵ニシテ一個年服役ノ後終末試験及第證書ヲ得テ豫備役ニ入ル者

第二 年齢定限ニ至ラスシテ現役ヲ退キタル將校同相當官

第二條 第一條第一ニ當ル者ハ豫備士官ト爲ス可キ爲メ現役ヲ終リタル次年ニ於テ尠クモ三個月間原隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サシム但志願軍吏生志願軍醫生及志願藥劑生ノ勤務演習ハ原所屬ニ於テスルト其他ニ於テスルトハ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ得テ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長之ヲ定ム

第三條 第二條ノ勤務演習ハ本人ノ冀望ニ由リ他隊ニ於テスルト勤務演習ノ期ヲ翌年ニ延ストハ近衛都督又ハ師團長ノ許可ヲ受ク可キモノトス但他ノ師團ノ某隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ近衛都督又ハ師團長ヨリ他ノ師團長ニ照會ス可シ

第四條 勤務演習ノ時期ハ步兵ニ在テハ近衛都督又ハ師團長他兵ニ在テハ各兵監志願軍吏生志願軍醫生及志願藥劑生ニ在テハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長之ヲ定メ志願獸醫生ニ在テハ本人ノ便宜ヲ斟酌シ



原隊ニ於テ之ヲ定ム

第五條 勤務演習ニ召集シタル者ハ其演習ノ始ニ於テ豫備見習士官ト爲シ現役見習士官ト同一ノ取扱及教育ヲ受ケシム但志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ハ各其専門ノ勤務ニ服セシム

第六條 勤務演習ノ終ニ於テ豫備將校試験ヲ爲シ及第ノ者ヲ士官ニ撰舉シ及補任ノコトヲ上中スルハ陸軍各兵科現役士官補充條例第二十九條乃至第三十一條ニ依ル但豫備將校試験ノ方法ハ近衛都督又ハ師團長之ヲ定ム

志願軍醫生志願藥劑生ハ實地ノ試験ヲ爲シ其及第者ヲ衛生部士官ニ撰舉シ及補任ノコトヲ上中スルハ陸軍衛生部現役士官補充條例第十一條乃至第十四條ニ依ル但撰舉會議ニ於テ多數ノ否認者アルトキハ其報告書ヲ陸軍醫務局長ニ上中シ醫務局長ハ其理由ヲ具ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ一等看護長又ハ一等調劑手ニ任シ豫備役ニ編入ス

志願軍吏生及志願獸醫生ハ實地ノ試験ヲ爲シ其及第者ヲ軍吏部又ハ獸醫部士官ニ撰舉ス及補任ノコトヲ上申スルハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 第六條ノ試験ニ落第シ仍ホ豫備士官タラシコトヲ冀望スル者及

事故アリテ召集ニ應シ得サリシ者ハ次年ノ勤務演習ニ召集ス

第八條 第六條ノ試験ニ落第シタル者ハ聯隊長若クハ之ト同等ノ權アル長官ヨリ近衛都督又ハ師團長<sup>歩兵旅團ニ上申シ許可ヲ得テ豫備見習士官タルノ分限ヲ除キ曹長同相當官若クハ一等軍曹相等官ニ任ス</sup>

第九條 豫備將校同相當官ノ服役期限ハ第一條第一ニ當ル者ハ徵兵令第十一條ニ依リ二箇年トシ第二ニ當ル者ハ現役ニ於テ定メタル年齢制限迄トス

第十條 後備將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一 豫備將校同相當官ヨリ後備籍ニ轉入スル者

第二 年齢制限ニ至リ現役ヲ退キタル將校同相當官

第十一條 後備將校同相當官ノ服役期限ハ總テ五箇年トス

第十二條 豫備後備將校同相當官ハ現役將校ノ進級停年ニ等シキ年數ヲ超ユルトキハ特ニ進級ノ爲メニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ查閱シ進級セシムルコトヲ得其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十三條 豫備後備將校同相當官ハ志願ニ依リ其服役期限ヲ延スコトヲ得

第十四條 豫備後備將校同相當官ノ服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時若ク



ハ事變ニ際スルトキハ其期限ヲ延スコトアル可シ  
附則

第十五條 豫備後備將校同相當官ハ當分豫備後備下士中士官適任證書ヲ所持スル者ヨリ補充スルコトアル可シ  
士官適任證書ヲ所持スル者ヲ豫備後備ノ士官ト爲スニハ第一條第一ニ當ル者ノ例ニ依ル其服役期限ハ豫備二個年後備五個年トス

第十六條 現今後備軍艦員タル將校同相當官中現役ニ於テ定メタル年齡定限ニ滿タサルモノハ其定限ニ滿ツル迄年齡定限ニ由リ後備軍艦員トナリタルモノハ艦員中ノ年數ヲ通算シ五個年間又後備軍艦員滿期ノ際志願ニ由リ服役延期ノモノハ其期限滿ツル迄後備役ニ服セシム

●本條例第六條ノ參照○陸軍各兵科現役士官補充條例〔勅令第二十七號明治二十年六月十五日拔萃〕

○第二十九條 見習士官ヲ將校ニ撰舉スルハ聯大隊長先ツ大隊長及中隊長ヨリ本人ノ學事上及軍事上ノ教育完全ニシテ將校タルヲ得ヘキ保證書ヲ得尙ホ聯大隊長モ亦自ラ是認シタル後始メテ聯「大隊ノ將校會議ニ付ス

○第三十條 將校會議ハ見習士官ヲ將校トナスノ可否ヲ議決スル所

トス故ニ各將校ハ可否ノ答ヲ自ラ撰舉報告ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署ス可シ

○第三十一條 將校會議ニ於テ將校ノ答皆可ナルトキハ其撰舉報告書ヲ添ヘ少尉ニ補任ノコトヲ鎮臺司令官ニ上申ス司令官ハ監軍ニ進達シ監軍之ヲ軍事參議官ニ移ス

若シ答多數可ナルモ幾分ノ否答アル者ハ其理由ヲ撰舉報告書ニ記入ノ上申スルコト前項ニ同シ之ニ反シ將校ノ答多數否ナルキハ否決ノ報告書ヲ鎮臺司令官ニ上申シ司令官ハ之ヲ監軍ニ進達シ監軍之ヲ軍事參議官ニ移シ參議官ハ其報告書ニ依リ見習士官タルノ分限ヲ除クコトヲ裁定シ監軍ニ移ス監軍之ヲ處分ス但此處分ヲ受ケタル者ハ曹長ニ任シ豫備役ニ編入ス

○陸軍衛生部現役士官補充條例〔勅令第九十號明治二十一年十月二十四日拔萃〕

○第十一條 見習醫官見習藥劑官ヲ衛生部士官ニ撰舉スルハ所管軍醫長先ツ其部隊高級醫官ヨリ其勤務勉勵品行方正學術適當ノ者ニシテ衛生部士官タルヲ得ヘキ保證書ヲ得且自ラ是認シタル後衛生部士官撰舉會議ニ付スヘシ

○第十二條 撰舉會議ハ見習醫官見習藥劑官ヲ衛生部士官ト爲スノ



可否ヲ議スル所トス議員ハ可否ヲ撰舉報告紙ニ記入シ署名捺印スヘシ

○第十三條 撰舉會議ハ近衛及師團軍醫部ニ於テ之ヲ開キ軍醫長ハ議長トナリ議員ハ師團司令部所在地近衛ハ部下又第一師團司令者ヲ以テ之ニ充ツ但第十一條ノ保證者ハ其議ニ加ハルコトヲ得ス

○第十四條 撰舉會議ニ於テ議員皆可トスルトキハ軍醫長ハ自己ノ意見書ニ撰舉報告書ヲ添ヘ三等軍醫或ハ三等藥劑官ニ補任ノコトヲ陸軍省醫務局長ニ上申ス醫務局長ハ之ヲ審査シテ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ進達ス  
若シ多數可ナルモ幾分ノ否認者アルトキ其理由ヲ報告書ニ記入シテ上申スルコト前項ニ同シ

陸軍各兵科豫備後備下士補充條例

(勅令第七十號明治二十二年五月二十二日)

第一條 陸軍各兵科憲兵科屯田兵ヲ除ク以下之ニ依テ豫備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一 豫備役上等兵中下士適任證書ヲ所持スル者

第二 現役免除ノ際下士ニ任セラレタル者

第三 服役七箇年ニ滿タヌシテ現役ヲ退キタル下士

第二條 各大隊長ハ多數ノ豫備下士ヲ養成スルヲ以テ責任トス故ニ毎年

各大隊ニ於テ掛クモ上等兵六名騎兵砲兵ハ各一名騎重兵ハ四名ヲ下士ニ任シ或ハ下士適任證書

ヲ附與シ除隊スルモノトス

第三條 第二條ノ下士ニ任ス可キ者ハ上等兵中技能優等ニシテ且品行方正ナル者ニ限ル

其當選者ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下之ニ依テヨリ近衛都督又ハ師團長歩兵ハ旅團長ヲ經テニ具狀シ認

可ヲ請ケ二等軍曹ニ任ス

第四條 陸軍各兵科後備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一 後備役上等兵中下士適任證書ヲ所持スル者

第二 豫備役ヲ終リ後備役ニ轉入スル下士

第三 服役七箇年以上十二箇年ニ滿タヌシテ現役ヲ退キタル下士

第五條 第一條第一及第四條第一ノ上等兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ下士



ノ缺員ニ應シ聯隊長之ヲ二等軍曹ニ任ス

第六條 豫備後備下士ハ任官後現役下士ノ進級停年ニ等シキ年數ヲ超ユルトキハ特ニ進級ノ爲メニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ查閲シ進級セシムルコトヲ得其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 豫備後備ノ下士及下士適任證書ヲ所持スル上等兵ハ志願ニ由リ服役期限ヲ延スコトヲ得

第八條 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年數ニ算入セス

附 則

第九條 豫備後備下士ハ當分豫備後備役兵卒中上等兵ニアラスヲテ下士適任證書ヲ所持スル者ヨリ補充スルコトアル可シ

第十條 後備軍艦員滿期ノ際志願ニ依リ服役延期中ノ者ハ其期限滿ツル迄後備役ニ服セシム

徵兵検査規則

〔陸軍省令第二號 明治廿二年三月二日〕

第一條 身體検査ノ要ハ合格ト不合格トヲ區別スルニ在リ合格ハ身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ不合格ハ疾病或ハ畸形ニシテ之ニ堪フヘカラサキモノトス而シテ此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 現ニ傷痍疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トス  
第三條 身幹ハ左ノ如ク定ムト雖モ所要ノ人員不足スル時ニ當リテハ臨時遞減スルコトアルヘシ

砲兵、工兵 五尺五寸以上

歩兵、騎兵、輜重兵 五尺三寸以上

輜重輸卒 五尺二寸以上

陸軍職工 五尺以上

海軍水兵、火夫、看病夫 五尺三寸以上

海軍木工、鍛冶、廚夫 五尺二寸以上

警備隊ノ歩兵砲兵ハ以上ノ定尺ヨリ各二寸以内減縮スルコトヲ得

第四條 兵役ニ堪フヘカラサル疾病畸形ハ大約左ノ如シ  
一 全身發育不全



- 二 骨、筋系瘦弱甚シキモノ
- 三 脂肪過多ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 四 慢性腺腫、慢性腺潰瘍
- 五 軟部ノ悪性若クハ著大ナル腫瘍、潰瘍
- 六 骨慢性炎、骨潰瘍、骨壞疽、骨腫瘍、骨軟化、佝僂病
- 七 癍痕廣大ナルモノ或ハ骨ト癒着シテ運動ニ妨アルモノ
- 八 象皮腫、癩
- 九 出血病、白血病
- 十 動脈瘤、靜脈瘤及著大ナル脈腫
- 十一 慢性關節僂麻質斯、慢性痛風ニシテ著シキ器質ノ變化アルモノ
- 十二 癩癧、舞蹈病
- 十三 脊髓勞、進行性筋瘦小
- 十四 白癩、癲狂
- 十五 頭部畸形ノ著大ナルモノ
- 十六 眼瞼ノ内反、外反及涙瘻
- 十七 角膜虹彩膜ノ疾患ニシテ視力ニ妨アルモノ
- 十八 斜視ニシテ一眼直視スルトキ他眼ノ角膜縁内外眦ニ達スルモノ

- 十九 陸軍兵ニ在テハ近視ニシテ視力二分ノ一以下ニ至ルモノ  
海軍兵ニ在テハ近視
- 二十 陸軍兵ニ在テハ視力乏弱二分ノ一以下ニ至ルモノ及夜盲  
海軍兵ニ在テハ視力乏弱及夜盲

- 二十一 失明
- 二十二 耳殼缺亡、慢性重聽、聾
- 二十三 鼻畸形ノ著大ナルモノ
- 二十四 鼻腔、前頭竇、上顎洞ノ慢性潰瘍、腫瘍
- 二十五 口内悪性潰瘍、唇頰癒著、口吻狹窄
- 二十六 唇又ハ歯牙ノ疾病缺損ニシテ咀嚼ニ妨アルモノ
- 二十七 口蓋ノ破裂、缺損、穿孔
- 二十八 舌若クハ唾腺ノ腺瘍、肥大、缺損又ハ扁桃腺ノ腫瘍、肥大ニシテ其著大ナルモノ及唾癭
- 二十九 啞、聾啞
- 三十 喉頭及氣管ノ畸形並ニ其慢性病
- 三十一 食道狹窄
- 三十二 斜頸及脊梁ノ畸形ニシテ運動ニ妨アルモノ



- 三十三 胸廓畸形ノ著大ナルモノ
- 三十四 肺、胸膜ノ慢性病
- 三十五 心臟、心嚢ノ慢性病
- 三十六 腋臭及足汗ノ惡臭甚シキモノ
- 三十七 骨盤畸形ノ著大ナルモノ
- 三十八 歇兒尼亞
- 三十九 慢性脱肛、痔瘻又ハ著大ノ痔核ニシテ定期性出血、膿潰等アルモノ
- 四十 尿癭、尿石及尿道畸形
- 四十一 睪丸、副睪丸ノ慢性炎、肥大及睪丸腹輪中ニ在テ疼痛ヲ發スルコトアルモノ
- 四十二 四肢ノ麻痺、削瘦、短縮、彎曲、假關節
- 四十三 關節畸形
- 四十四 脱臼若クハ習癖脱臼又ハ關節痿軟
- 四十五 拇指若クハ示指又ハ他ノ三指ノ爪甲全缺
- 四十六 陸軍兵ニ在テハ刺指又ハ指ノ癒著及小指末節ヲ除クノ他指節ノ強剛

- 四十七 海軍兵ニ在テハ刺指又ハ指ノ癒著及指節ノ強剛
  - 陸軍兵ニ在テハ環指若クハ小指ノ末節ヲ除クノ他一節以上又ハ環指小指共ニ一節以上ノ缺損
  - 海軍兵ニ在テハ諸指一節以上ノ缺損
  - 四十八 足ノ畸形
  - 四十九 陸軍兵ニ在テハ大趾ハ一節以上他趾ハ二趾以上ニシテ一節以上ノ缺損
  - 海軍兵ニ在テハ諸趾一節以上ノ缺損
  - 五十 刺趾又ハ趾ノ著大ナル彎曲
- 第五條 前條各項ノ疾病畸形ト雖モ其輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ニシテ服役シ得ヘカラサルモノト認ムルトキハ不合格トス



徵兵検査手續

〔陸達第三十七號 明治二十二年三月二十五日〕

第一條 徵兵検査手續ハ 徵兵検査規則ニ據リ之ヲ定ムルモノナリ

第二條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ一日壯丁概テ百五十名ヲ檢

査シ旅管徵兵委員タル醫官其検査ヲ要スルトキハ一日概テ五十名ヲ檢

査スヘシ

検査ニ要スル器械ハ陸軍病院備付ノモノヲ使用ス

第三條 大隊區(警備隊區)徵兵署事務員タル地方徵兵委員ハ四名トス

第四條 身軀検査ノ順序ハ概テ左ノ如シ但シ測尺及視力關節運動各部構

造ノ検査ハ地方徵兵醫員ニ分擔セシムルモノトス

一 測尺主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セシメ全

身長ヲ測リ其尺度ヲ壯丁名簿ニ記入捺印シ次ニ尺帶ヲ取り兩肩

胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝シ尋常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍

ヲ測リ續テ最強ノ呼吸ヲナサシメ其縮張ノ差ヲ測ルヘシ但シ身

幹定尺ニ滿ツルモノ胸圍身幹ノ半ヨリ大ナルモノ縮張ノ差一寸

五分以上ノモノハ壯丁名簿ニ捺印シ是ヨリ以下ノモノ及測尺困

難ナルモノハ醫官ニ申告スヘシ

二 視力検査主任ノ醫員ハ「スチルレン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ



二十尺ノ距離ニ壯丁ヲ立シメ初メ各偏眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢スヘシ其檢査ニ由リ視力表ノ二十号ヲ明視スルモノ及辨色力完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

三 關節運動檢査主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ頭首、脊推、四肢諸關節ノ屈伸、内外轉、回轉ノ諸運動ヲナサシメ其運動完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

四 各部構造檢査主任ノ醫員ハ頭顱、顔面、眼、鼻、口、咽喉、耳、頸、胸、肋、腋窩、上肢ノ前面及其兩側、腹肚、陰部、下肢ノ前面及其兩側、項、背、腰、臀、膀、肛門、四肢ノ後面ヲ檢シ其完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

五 醫官ハ主任醫員ノ申告ニ依リ不合格ト認メタルモノハ爾餘ノ檢査ヲ止メ否ラサルモノハ壯丁名簿ニ自ラ其意見ヲ記入シタル後他ノ檢査ヲ行ハシム

六 醫官ハ主任醫員ノ檢査終ル後壯丁ノ住所、氏名、年齡等ヲ問ヒ應答ノ間言語、精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等位ヲ定ム

第五條 體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ

二 乙種 甲種ニ亞クモノ

三 丙種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ

四 丁種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ

第六條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ壯丁名簿ニ其意見ヲ記入スヘシ

一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身幹ノ半ニ至ラス若クハ縮張ノ差一寸五分ヲ超ヘサルモ其構造良ナルモノ

二 身體一部ノ形器官能ニ障礙アルモ喘重輸卒若クハ陸軍職工ノ服役ニ堪フヘキモノ

三 精神病、癲癩、重聽、夜盲、遺尿又ハ自覺症ヲ訴フルモ現ニ其徵候ナリ若クハ其徵候確實ナラサルモノ

第七條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ壯丁體格ノ適否ヲ判定シ難キ場合ニ於テハ當該徵募區檢査期日內其檢査ヲ續行スルコトヲ得而シテ尙決シ難キモノアルトキハ其理由ヲ附箋シテ旅管徵兵委員タル醫官ノ審決ニ附スヘシ















備考

明治何年何月何日

何々委員 官 氏 名 印

陸軍志願兵身體檢查規則

(陸達第三十九號 明治二十二年三月二十八日)

第一條 身體檢查ノ要ハ合格ト不合格トヲ區別スルニ在リ而シテ醫官ハ此檢查ヲ行フ爲メ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 醫官ハ一日志願兵概テ四十名(助手アルトキ概テ六十名)ヲ檢查スヘシ其檢查ニ要スル器械ハ陸軍病院備附ノモノヲ使用ス

第三條 志願兵ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ  
滿十七歲以上十八歲未滿 四尺九寸以上  
滿十八歲以上 五尺以上

第四條 徵兵檢查規則第四條及第五條ハ此規則ニ於テ之ヲ適用ス

第五條 身體檢查ノ順序ハ概テ左ノ如シ但シ志願兵志願者ヲ徵兵署若シクハ徵兵檢查所ニ於テ檢查スルトキハ第一項第二項第三項第四項ハ地方徵兵委員ニ分擔セシムルコトヲ得

- 一 志願兵ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セシメ其身長ヲ測定シ次ニ尺帶ヲ取り兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝シ尋常ノ氣息ヲサシメテ胸圍ヲ測リ續テ最強ノ呼吸ヲサシメ其縮張ノ差ヲ測ル
- 二 「ステルレン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ志願兵ヲ立シノ初メ各偏眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨



色力ヲ檢ス

- 三 頭首、背椎、四肢諸關節ノ屈伸、内外轉、回轉ノ諸運動ヲ檢ス
- 四 頭顱、顔面、眼、鼻、口、咽喉、耳、頸、胸肋、腋窩、上肢ノ前面及其兩側、腹肚、陰部、下肢ノ前面及其兩側、頂背、腰、臀、膀、肛門、四肢ノ後面ヲ檢ス
- 五 其住所、氏名、年齡等ヲ問ヒ應答ノ間言語精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其体格一般ノ強弱健否ヲ判別シ体格ノ等位ヲ定ム
- 第六條 体格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ
  - 一 甲種 身體強健精神異常ナシテ兵役ニ堪フヘキモノ
  - 二 乙種 甲種ニ亞シモノ
  - 三 丙種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ
- 第七條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス但シ丙種中<sup>二十歳未満ノモノヲ除ク</sup>永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キモノトヲ區別スヘシ
- 第八條 左ノ各項ノ一ニ該ルモノハ年齡及体格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ体格檢査表<sup>第一</sup>ニ其意見ヲ記入スヘシ
  - 一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身長ノ半ニ至ラス若クハ縮張ノ差一寸五分ヲ超ヘザルモ其構造良ナルモノ
  - 二 現ニ傷痍疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ治癒ノ目途アルモノ

第九條 一年志願兵志願者ハ特ニ近視ニシテ視力十分ノ一以上ノモノヲ合格トナスコトヲ得

第十條 醫官ハ檢査終了ノ後一週日以内ニ体格表<sup>第二</sup>病類表<sup>第三</sup>ヲ調製シテ

所管軍醫長ニ呈シ軍醫長之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第十一條 醫官ハ檢査事項ニ關シ意見アルトキハ報告ニ添ヘ開申スルモノトス

第十二條 此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體檢査ニ適用ス但幼年學校生徒志願者ニ在リテハ視力三分ノ二以上ニアラサレハ合格トナスコトヲ得ス

第十三條 諸生徒志願者ノ身長ハ左ノ如シ但シ別ニ規定スル所アルモノハ此ノ限ニ非ス

- 滿十五歲以上十六歲未滿 四尺七寸以上
- 滿十六歲以上十七歲未滿 四尺八寸以上
- 滿十七歲以上ハ第三條ニ同シ

第十四條 士官候補生並諸生徒志願者ノ体格檢査表ハ檢査終了ノ後試驗委員(檢査官)ヲ經テ候補生並諸生徒ノ屬スヘキ部隊長ニ送附スヘシ















徵兵旅費定則

四十五									
四十六									
四十七									
四十八									
四十九									
五十									
合計									

備考

明治何年何月何日

官氏名印

徵兵旅費定則

(天藏省令第十七號 明治二十年十二月十六日改正)

第一條 徵兵旅費ハ檢査及入營ノ二種トス片道三里以上ノ旅行ヨリ之ヲ支給ス  
 檢査旅費ハ檢丁呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具者ニ同伴シタル保護人及抽籤人檢査所又ハ抽籤場ヘ往復ノ旅費トス  
 入營旅費ハ新兵入營ノ旅費トス

第二條 檢査旅費ハ一里ニ付金貳錢五厘入營旅費ハ同金四錢ノ割ヲ以テ支給ス但一里未滿ノ端里數ハ切捨トス  
 官ノ都合ヨリ特ニ滞在ヲ命シタル檢査旅費ニ在テハ金貳拾貳錢入營旅費ニ在テハ金貳拾八錢ノ滞在日當ヲ支給ス

官ノ都合ヨリ特ニ滞在ヲ命シタルニアラスト雖モ川留雪岡ニシテ途中ニ滞在スルトキハ其地戸長ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當ヲ支給スルヲ得  
 第三條 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キトキハ渡航賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニヨリ特ニ宿泊ヲ命シタルキハ檢査旅費ニ在リテハ金拾五錢入營旅費ニ在テハ金貳拾錢ノ宿泊料ヲ支給

○本條二項ノ宿泊料ハ第一項ノ旅費額ニ對シテ少額ナル場合ニ於テハ旅行費ヲ合算スルコトヲ得



徵兵旅費定則

ス

第四條 片道三里以上ノ旅行ニシテ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キモノ若シクハ地勢上渡航又ハ瀛車乗用ヲ便トスルトキハ第二條ニヨラス其實費〔瀛車瀛船ハ下等貨タルヘシ〕ヲ支給スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ泊數ニ應ンテ前條ノ宿泊料ヲ給ス其陸行〔徒歩〕ト相跨ル日亦之ニ準シ尙陸路里數ニ應シテ別ニ第二條ノ旅費ヲ支給ス

第五條 新兵入營ノ旅行ハ一日十里詰トシ若シ各兵集合上ノ都合ニヨリ其見積行程ヨリ延着ヒシメタルトキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス

第六條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ第二條ノ外片道一里以上ヨリ一里ニ付金六錢ノ駕車賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條 新兵入營途中疾病ニヨリ歩行スル能ハスシテ駕車ヲ乗用シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ駕車賃ノ實費若クハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第八條 新兵ニ附添ヒ營所ニ至ル郡區書記若クハ戸長ノ旅費ハ内國旅費規則ニヨル

○徵兵事務條例第  
四十八條ニ依リ消  
減ス

第九條 北海道廳長官府縣知事ノ見込ニヨリ本則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜ナルヘシ



軍令  
兵部  
法律  
規則

師團司令部條例

(勅令第二十七號 明治二十一年五月十二日)

第一條 師團長ハ中將ヲ以テ之ニ補シ直ニ

皇帝陛下ニ隷シ師管内ニ在ル軍隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條 師團長ハ師管内軍隊ノ出師準備ヲ整理シ又徵兵ノ事ヲ統轄ス

第三條 師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ就テ其責ニ任ス但特科兵専門ノ事ハ當該兵監ノ責任ニ屬ス

第四條 師團長ハ不虞ノ侵襲ニ際シ師管内ノ防禦及陸軍諸官廳諸建築物ノ保護ニ任ス

府縣知事地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ師團長直ニ之ニ應シテ後陸軍大臣及參軍ニ報告ス可シ若其事變危險ニシテ府縣知事ノ請求シ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ師團長ハ兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第五條 疾疫其他例外ノ場合ニ方リ師團長一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參軍ニ報告スヘシ

第六條 師團長ハ師管内ニ在ル軍隊及陸軍官廳ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス



第七條 師團長ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テハ參軍教育ニ係ル事ニ就テハ監軍ノ區處ヲ受ク師團長ハ此三官ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期或ハ臨時報告ヲナスヘキモノトス

第八條 特科兵専門ノ事ニ付師團長意見アレハ直接ニ之ヲ當該兵監ニ告知スルヲ得

第九條 師團長ハ隨時ニ部下ノ軍隊ヲ檢閲シ毎年教育期ノ終リ即チ機動演習ノ後ニ於テ全師團教育ノ結果能ク實戰ノ目的ニ適スルヤ否又其出戰整備完全ナルヤ否ニ就キ監軍ヲ經テ 奏上ス

第十條 師團長赴任ノ節師團司令部所在地ノ府縣知事警視總監大審院長控訴院長檢事長始審裁判所長及檢事<sup>上</sup>者席トハ三日以内互ニ訪問シ其師管内ノ府縣知事控訴院長檢事長及始審裁判所長及檢事<sup>上</sup>者席トハ三十日以内互ニ移文訪問スヘシ但共ニ官等卑キ者ヨリ先ニス可シ

第十一條 師團司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

- 一 參謀部
- 二 副官部
- 三 法官部
- 四 監督部

第五 軍醫部

第六 獸醫部

第十二條 參謀部及副官部ノ將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ司リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

第十三條 法官部理事監督部長軍醫長獸醫長ヨリ師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ニ開陳スヘシ

師團司令部職官表

分	官		本		支	
	課	等	師團長	參謀部	副官部	計官
將	大佐並中佐並少佐並大尉並中尉並少尉並	一		參謀長一 參謀	副官一 副官一 副官	
准士官	曹長並一等軍曹二等軍曹			一參謀一	書記 一二三等書記	
計					九 一六 一六	
支						三 三 三 六
監督部						
法官部						
理事						
軍醫部						
軍醫長		一				
部員		二				
部員		一				
書記						三
部員						三
書記						七



軍法會議  
旅團司令部條例

部	獸醫部	獸醫長	書記
合計	一	四	一八
備考	一 監督部ノ定員ハ監督部條例ニ定ムル所ニ依ル 二 理事ノ定員ハ本表ニ掲クル如シト雖モ第一師團ニハ理事五名錄事七名第四師團ニハ理事一名 三 軍醫部大尉相當官ノ部員ハ軍醫藥劑官各一名トス		
	一	二	三五

旅團司令部條例

〔勅令第二十八號 明治二十二年五月十二日〕

- 第一條 旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下ノ歩兵二聯隊及旅管ニ包括スル四大隊區司令部ヲ統轄ス
- 第二條 軍隊ノ訓練、風紀、軍紀、將校ノ教育、內務及糧食、被服、裝具ノ事ハ聯隊長ノ責任ニシテ旅團長之ヲ統監ス但大隊戰術上ノ訓練ハ特ニ旅團長ノ監視スヘキモノトス
- 第三條 旅團長ハ他兵連合ノ野外演習ヲ監視シ支隊演習ヲ統轄シ旅團ヲ以テ戰術單位ト爲シタル訓練ニ任ス
- 第四條 旅團長ハ其旅管徵兵ノ事ヲ掌リ又大隊區ノ徵兵事務及召集事務ヲ統監ス
- 第五條 騷擾變亂ノ事アルニ際シ府縣知事ヨリ兵力ヲ請求ズルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應シテ後師團長ニ報告スヘシ
- 第六條 特ニ軍法會議ヲ設ケタル旅管ニ在テハ旅團長其軍法會議ヲ管轄ス
- 第七條 旅團司令部ニ副官大尉一名中尉若クハ少尉一名書記下士四名近衛ニ置ク但軍法會議ヲ管轄スル旅團司令部ニハ理事二名錄事二名ヲ置ク



第八條 本條例中地方ニ係ル事件ハ近衛旅團長ニ適用セス

大隊區司令部條例

〔勅令第二十九號明治二十二年五月十二日〕

第一條 各大隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官 中佐若クハ少佐一名

副官 大尉若クハ中尉一名

書記 下士五名内一名ハ軍吏部下士

監視區長 曹長二名乃至四名

第二條 大隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ其大隊區内徴兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 大隊區司令官ハ大隊區内ニ現在スル豫備後備ノ將校及相當官ノ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條 大隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第五條 大隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注及計算ノ事ニ從フ

第六條 各大隊區司令部ノ位置左ノ如シ

麻布 水戸 横濱 高崎 長野

佐倉 新發田 本郷 宇都宮 仙臺

福島 山形 柏崎 青森 盛岡

秋田 金澤 名古屋 津 豊橋



陸軍常備隊配備表

第九條 監視區ノ區域並ニ監視區長ノ駐割地ハ師團長之ヲ定ム

第八條 監視區長ハ監視區内ニ駐割シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第七條 大隊區ヲ分テ二箇乃至四箇ノ監視區ト爲ス

第六條 監視區長ハ監視區内ニ駐割シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第五條 監視區長ハ監視區内ニ駐割シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第四條 監視區長ハ監視區内ニ駐割シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第三條 監視區長ハ監視區内ニ駐割シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第二條 監視區長ハ監視區内ニ駐割シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第一條 監視區長ハ監視區内ニ駐割シ豫備後備ノ下士卒ヲ監視シ身上異動其他願届ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

勅令第三十一號 (明治二十一年五月十二日)

陸軍常備隊配備表

師團		旅團		兵		諸隊衛戍地		
名稱	司令部所在地	名稱	司令部所在地	聯隊	大隊	大隊		
第一 東京	東京	第一 東京	東京	第一	第一	第一	東京	
				第二	第二	第二	佐倉	
		第二 佐倉	佐倉	第三	第三	第三	第三	東京
				第四	第四	第四	仙臺	
		第三 仙臺	仙臺	第五	第五	第五	第五	新發田
				第六	第六	第六	青森	
		第四 青森	青森	第七	第七	第七	第七	仙臺
				第八	第八	第八	豊橋	
		第五 名古屋	名古屋	第九	第九	第九	第九	名古屋
				第十	第十	第十	名古屋	
第六 金澤	金澤	第十一	第十一	第十一	第十一	金澤		
		第十二	第十二	第十二	金澤			
第七 名古屋	名古屋	第十三	第十三	第十三	第十三	名古屋		
		第十四	第十四	第十四	名古屋			
第八 金澤	金澤	第十五	第十五	第十五	第十五	金澤		
		第十六	第十六	第十六	金澤			
第九 金澤	金澤	第十七	第十七	第十七	第十七	金澤		
		第十八	第十八	第十八	金澤			
第十 金澤	金澤	第十九	第十九	第十九	第十九	金澤		
		第二十	第二十	第二十	金澤			

陸軍常備隊配備表

陸軍常備隊配備表

八十











四			第				五		
岡	神	宮	廣	尾	山	松	九	德	松
山	戶	津	島	ノ	口	山	龜	島	山
岡山	兵庫	京都	廣島	廣島	山口	島根	愛媛	德島	愛媛
岡山區 兒島 御野 上道 津高 赤坂 磐梨 邑入	神戶區 八部 武庫 菟原 川邊 有馬 大坂 西成 島上 島下	與謝 加佐 中 竹野 熊野 船井 天田 兵庫 城崎 美含 出石 氣多 七美 二方 氷上 福井 三方 遠敷	廣島區 安藝 加茂 豐田 高宮	廣島 沼田 佐伯 山縣 高田	山口	島根 秋鹿 意字 能義 仁多 大原 出雲 楯縫 廣島 惠蘇 三三 三谿 奴可	愛媛 那珂 小豆 寒川 大内 香川 三木 山田	德島	愛媛 温泉 風早 和氣 糸 新居 周布 桑村 越智 野間 上浮穴 下浮穴 伊豫 喜多 東宇和 西宇和 南宇和 北宇和

六			第				五		
長	福	佐	小	鹿	八	宮	熊	高	高
崎	岡	賀	倉	兒	代	崎	本	知	知
長崎	福岡	佐賀	福岡	鹿兒島	八代	宮崎	熊本	高知	高知
長崎區 西彼杵 東彼杵 北松浦 佐賀 東松浦 西松浦	福岡區 粕屋 宗像 鞍手 遠賀 嘉麻 穂波 上座 下座 夜須 竹野 那珂 御笠 席田 怡土 志摩 早良 御井 御原 山本 生葉	佐賀 三根 小城 杵島 藤津 福岡 上妻 下妻	福岡 築城 上毛 田川 大分 玖珠 日田 下毛 宇佐	鹿兒島 鹿兒島 日置 谿山 阿多 給黎 揖宿 穎娃 川邊 菱刈 始良 桑原 東嶺 吹 西嶺 吹 南諸縣 南大隅 北大隅 肝屬	八代 葦 北球 磨 鹿兒島 高城 出水 南伊佐 天草 上益城 下益城	宮崎 大分 南海部 北海部	熊本 熊本區 飽田 託摩 宇土 玉名 山鹿 山本 菊池 合志 阿蘇	高知	高知



二	
對 馬 長 崎 上 縣 下 縣	五 島 長 崎 南 松 浦

北海道ハ管區制定ニ至ル迄第二師管第四旅管青森大隊區ニ屬ス  
 警備隊設置迄ハ東京府小笠原島ハ麻布大隊區ニ新潟縣雜太羽茂加茂三郡ハ柏崎大隊區ニ島根縣周吉穩  
 地海士知夫四郡ハ松江大隊區ニ鹿兒島縣大島熊毛馭謨三郡及沖繩縣ハ鹿兒島大隊區ニ長崎縣南松浦郡  
 ハ長崎大隊區ニ屬ス

監視區域並監視區長駐割地一覽表

師管區及旅管區		第一旅管												大隊區		
第一旅管												監視區長		駐割地		
長野			高崎			橫濱			麻布			監視區域		監視區域		
上	伊	長	伊	高	本	橫	小	甲	府	麻	麴	府	麻	麴	府	麻
田	那	野	勢	崎	莊	濱	田	府	中	布	町	中	布	町	中	布
小縣郡	上伊那郡	下伊那郡	西群馬郡	碓氷郡	利根郡	橫濱區	北都留郡	北巨摩郡	北多摩郡	橘樹郡	麴町區	北多摩郡	橘樹郡	麴町區	北多摩郡	橘樹郡
上高井郡	下高井郡	下高井郡	碓氷郡	利根郡	利根郡	鎌倉郡	足柄上郡	中巨摩郡	西多摩郡	芝區	神田區	西多摩郡	赤坂區	日本橋區	西多摩郡	赤坂區
下高井郡	下高井郡	下高井郡	碓氷郡	利根郡	利根郡	久良岐郡	津久井郡	南巨摩郡	南多摩郡	四ッ谷區	京橋區	南多摩郡	小笠原島	京橋區	南多摩郡	小笠原島
埴科郡	埴科郡	埴科郡	碓氷郡	利根郡	利根郡	三浦郡	大住郡	西八代郡	入間郡	荏原郡	牛込區	入間郡	小笠原島	牛込區	入間郡	小笠原島
南佐久郡	北佐久郡	北佐久郡	碓氷郡	利根郡	利根郡	愛甲郡	洵綾郡	東八代郡	高麗郡	東多摩郡	小石川區	高麗郡	南豐島郡	小石川區	高麗郡	南豐島郡
北佐久郡	北佐久郡	北佐久郡	碓氷郡	利根郡	利根郡	高坐郡	南都留郡	東山梨郡		南豐島郡	伊豆七島			伊豆七島		

徵兵法規

各師管監視區域表



考 備	師 管												
	第 二 旅 管												
	宇都宮			本郷			水戸			佐倉			
	境	朽木	宇都宮	岩槻	浦和	本郷	水戸	土浦	太田	水更津	東金	千葉	千葉
麻布監視區域内ノ小等原島ハ同島在住ノ豫後備ノ職員兵員ニ關スル取扱ヲ爲スノミトス	猿島郡	結城郡	岡田郡	西葛飾郡	豊田郡	眞壁郡	河内郡	芳賀郡	那須郡	南埼玉郡	北埼玉郡	北葛飾郡	中葛飾郡
	下都賀郡	上都賀郡	鹽谷郡	安蘇郡	足利郡	梁田郡	寒川郡	新治郡	筑波郡	河内郡	信太郡	北相馬郡	東茨城郡
	東茨城郡	西茨城郡	鹿島郡	行方郡	本郷區	下谷區	淺草區	深川區	本所區	南葛飾郡	北足立郡	北豐島郡	南足立郡
	久慈郡	多賀郡	那珂郡	新治郡	筑波郡	河内郡	信太郡	北相馬郡	望陀郡	天羽郡	周准郡	夷隅郡	朝夷郡
	山邊郡	長柄郡	上埴生郡	武射郡	海上郡	匝瑳郡	香取郡	千葉郡	市原郡	東葛飾郡	印旛郡	下埴生郡	南相馬郡

監視區域並監視區長駐割地一覽表

師管區及旅管區	第 二 旅 管												
	第 三 旅 管												
	仙臺			福島			新發田			柏崎			
	大河原	古川	仙臺區	福島	西白河	福島	新發田	三條	新發田	十日町	高田	柏崎	大隊區
仙臺區	名取郡	柴田郡	福島縣ノ内	宇多郡	行方郡	仙臺區	刈田郡	伊具郡	亘理郡	福島縣ノ内	伊達郡	行方郡	大隊區
宮城郡	黒川郡	加美郡	遠田郡	志田郡	玉造郡	桃生郡	牡鹿郡	信夫郡	安達郡	安積郡	田村郡	標葉郡	檜葉郡
磐城郡	磐前郡	安積郡	田村郡	標葉郡	檜葉郡	磐城郡	新瀉區	北蒲原郡	岩船郡	東蒲原郡	中蒲原郡	新瀉區	大隊區
新瀉區	北蒲原郡	岩船郡	東蒲原郡	中蒲原郡	南蒲原郡	西蒲原郡	古志郡	新瀉區	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡	三島郡	佐渡一圓
新瀉區	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡	三島郡	佐渡一圓	刈羽郡	東頸城郡	中頸城郡	西頸城郡	東頸城郡	中頸城郡	西頸城郡	大隊區
駐割地	監視區域												



備 考	師 管											
	第 四 旅 管											
	山 形		盛 岡		秋 田		青 森			弘 前		
橋 岡	山 形	一 ノ 關	盛 岡	鷹 巢	橫 手	七 ノ 戸	弘 前	七 ノ 戸	弘 前	弘 前	弘 前	
	最上郡 北村山郡 東田川郡 西田川郡 飽海郡	南村山郡 東村山郡 南村山郡 東管賜郡 西管賜郡	江刺郡 氣仙郡 宮城縣ノ内 栗原郡 登米郡	北閉伊郡 中閉伊郡 稗貫郡 西和賀郡 東和賀郡 南閉伊郡	南岩手郡 北岩手郡 紫波郡 東閉伊郡 西閉伊郡 南閉伊郡	仙北郡 由利郡 平鹿郡 雄勝郡	南秋田郡 北秋田郡 河邊郡 鹿角郡 山本郡	上北郡 下北郡 岩手縣ノ内 北九戸郡 南九戸郡	三戸郡	東津輕郡 西津輕郡 南津輕郡 北津輕郡 中津輕郡		

監視區域並監視區長駐割地一覽表

第 三 旅 管											師 管 區 及 旅 管 區	
第 五 旅 管											大隊區	
靜 岡		豐 橋		津		名 古 屋			名 古 屋		駐 割 地	監 視 區 長
沼 津	靜 岡	濱 松	豐 橋	山 田	津	半 田	名 古 屋	名 古 屋	海 東 郡	海 西 郡	愛 知 郡	監 視 區 域
富士郡 駿東郡 庵原郡 君澤郡 田方郡 那賀郡 加茂郡	安倍郡 有渡郡 志太郡 益津郡 榛原郡 周智郡 佐野郡	濱名郡 長上郡 鹿玉郡 敷知郡 豊田郡 引佐郡 山名郡	渥美郡 八名郡 南設樂郡 寶飯郡 額田郡 東加茂郡 西加茂郡	多氣郡 飯高郡 飯野郡 答志郡 英虞郡 北牟婁郡	朝明郡 鈴鹿郡 奄藝郡 河曲郡 桑名郡 員辨郡 三重郡	安濃郡 一志郡 奄藝郡 河曲郡 桑名郡 員辨郡 三重郡	名古屋區 海東郡 海西郡 愛知郡	名古屋區 海東郡 海西郡 愛知郡	知多郡 碧海郡			監視區域

敬  
兵  
法  
規

各  
師  
管  
監  
視  
區  
域  
表



行  
兵  
法  
規

考 備	師 管												
	第 六 旅 管												
	福 井			岐 阜			富 山			金 澤			
	大	福		太	岐	高	富		七	金			
	垣	井		田	阜	山	山		尾	澤			
	多 西 藝 郡	海 西 郡	敦 賀 郡	武 儀 郡	厚 見 郡 中 嶋 郡	武 儀 郡 可 兒 郡	上 新 川 郡 下 新 川 郡 射 水 郡 蠡 波 郡	上 新 川 郡 下 新 川 郡 益 田 郡 吉 城 郡 大 野 郡	鹿 島 郡 羽 咋 郡 珠 洲 郡 鳳 至 郡	金 澤 區 石 川 郡 河 北 郡 能 美 郡 江 沼 郡			
	下 石 津 郡 本 巢 郡 不 破 郡 大 野 郡 上 石 津 郡 池 田 郡	下 石 津 郡 本 巢 郡 不 破 郡 大 野 郡 上 石 津 郡 池 田 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡	吉 田 郡 坂 井 郡 大 野 郡 南 條 郡 今 立 郡 丹 生 郡

監視區域並監視區長駐割地一覽表

第 四 旅 管												師 管 區 及 旅 管 區									
第 七 旅 管												大 隊 區									
京 都			大 津			和 歌 山			大 坂			駐 割 地									
京	三	奈	大	彦	上	五	新	和	堺	八	大	東	南	西	北	東	成	住	吉	大 野 郡	大 野 郡
都	輪	良	津	根	野	條	宮	歌 山	堺	尾	坂	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡
上 京 區	式 下 郡	葛 上 郡	滋 賀 郡	神 崎 郡	名 張 郡	阿 拜 郡	那 賀 郡	和 歌 山 區	堺 區	丹 北 郡	東 區	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡
下 京 區	宇 陀 郡	葛 下 郡	滋 賀 郡	神 崎 郡	名 張 郡	阿 拜 郡	那 賀 郡	和 歌 山 區	堺 區	丹 北 郡	東 區	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡
愛 宕 郡	十 市 郡	忍 海 郡	栗 田 郡	神 崎 郡	名 張 郡	阿 拜 郡	那 賀 郡	和 歌 山 區	堺 區	丹 北 郡	東 區	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡
葛 野 郡	高 市 郡	高 市 郡	野 州 郡	神 崎 郡	名 張 郡	阿 拜 郡	那 賀 郡	和 歌 山 區	堺 區	丹 北 郡	東 區	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡
乙 訓 郡	廣 瀨 郡	廣 瀨 郡	高 島 郡	神 崎 郡	名 張 郡	阿 拜 郡	那 賀 郡	和 歌 山 區	堺 區	丹 北 郡	東 區	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡
	山 邊 郡	山 邊 郡	高 島 郡	神 崎 郡	名 張 郡	阿 拜 郡	那 賀 郡	和 歌 山 區	堺 區	丹 北 郡	東 區	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡
	式 上 郡	式 上 郡	高 島 郡	神 崎 郡	名 張 郡	阿 拜 郡	那 賀 郡	和 歌 山 區	堺 區	丹 北 郡	東 區	東 區	南 區	西 區	北 區	東 成 郡	住 吉 郡			大 野 郡	大 野 郡

數  
兵  
法  
規

各  
師  
管  
監  
視  
區  
域  
表



備考

考 備	師																						
	管																						
	旅																						
	第																						
	宮津			神戶			岡山			姫路													
	園	宮	豐	洲	神	會	倉	津	岡	鳥	三	日	月	路									
	部	津	岡	本	戶	根	吉	山	山	取	月	月	月	路									
	天田郡	南桑田郡	何鹿郡	與謝郡	氣多郡	朝來郡	津名郡	八部郡	神戶區	能勢郡	西成郡	日野郡	西北條郡	大庭郡	津高郡	岡山區	岩井郡	氣多郡	安東郡	揖東郡	印南郡	飾東郡	
	船井郡	北桑田郡	加佐郡	加佐郡	養父郡	城崎郡	三原郡	明石郡	美彥郡	豐島郡	島上郡	會見郡	西條郡	勝南郡	兒島郡	御野郡	高草郡	赤穂郡	揖西郡	揖東郡	印南郡	飾東郡	
	兵庫縣、内	兵庫縣、内	福井縣、内	福井縣、内	七美郡	美合郡	三原郡	美彥郡	加古郡	兵庫縣、内	島下郡	汗入郡	真島郡	勝北郡	上道郡	上道郡	八上郡	佐用郡	揖東郡	印南郡	飾東郡	加東郡	
	水上市	多紀郡	遠敷郡	遠敷郡	出石郡	美合郡	三原郡	加古郡	有馬郡	兵庫縣、内	川邊郡	八橋郡	久米郡	衆南條郡	和氣郡	和氣郡	智頭郡	岡山縣、内	岡山縣、内	英田郡	神東郡	加西郡	
			大阪府、内	大阪府、内	京都府、内	京都府、内	京都府、内	京都府、内	武庫郡	武庫郡	武庫郡	河村郡	久米郡	衆南條郡	和氣郡	和氣郡	智頭郡	岡山縣、内	岡山縣、内	英田郡	神東郡	加西郡	
					竹野郡	竹野郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡	中郡

監視區域並監視區長駐割地一覽表

第 五 第															師管區及旅管區	
管 旅 九 第															大隊區	
松江			尾道			山口			廣島			駐割地		監視區長		
濱	三	松	高	玉	尾	豐	岩	山	西	可	廣	廣	廣	廣	廣	廣
田	次	江	梁	島	道	浦	國	口	條	部	島	島	島	島	島	島
安濃郡	三次郡	松江郡	川上郡	下道郡	安那郡	大津郡	玖珂郡	阿武郡	加茂郡	高宮郡	安藝郡	安藝郡	安藝郡	安藝郡	安藝郡	安藝郡
邇摩郡	三谿郡	松江郡	上房郡	下道郡	深津郡	美稱郡	大島郡	吉敷郡	豊田郡	山縣郡	佐伯郡	佐伯郡	佐伯郡	佐伯郡	佐伯郡	佐伯郡
邑知郡	奴可郡	松江郡	阿賀郡	後月郡	甲奴郡	厚狹郡	熊毛郡	佐渡郡	見島郡	高田郡	廣島區	廣島區	廣島區	廣島區	廣島區	廣島區
那賀郡	三上郡	松江郡	賀陽郡	淺口郡	神石郡	豊浦郡	赤間關區	見島郡	都濃郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡
美濃郡	惠蘇郡	松江郡	島根郡	窪屋郡	沼隈郡	赤間關區	赤間關區	見島郡	都濃郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡	沼田郡
鹿足郡	能義郡	松江郡	島根郡	都字郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡	品沼郡

數兵法規

各師管監視區域表



考 備	師 管																					
	第 十 旅 管																					
	高 知			德 島			九 龜			松 山												
	赤 岡	須 崎	高 知	富 岡	脇 町	德 島	川 江	高 松	九 龜	今 治	宇 和 島	松 山	今 治	宇 和 島	松 山							
	安藝郡	高岡郡	土佐郡	那賀郡	阿波郡	名東郡	三野郡	香川郡	多度郡	野間郡	東宇和郡	鹿早郡	越智郡	和氣郡	溫泉郡	久米郡	伊豫郡	上浮穴郡	下浮穴郡			
	加美郡	幡多郡	吾川郡	海部郡	麻植郡	名西郡	豐田郡	山田郡	那珂郡	桑村郡	西宇和郡	北宇和郡	周布郡	北宇和郡	板野郡	三木郡	寒河郡	大内郡	小豆郡	新居郡	南宇和郡	喜多郡
	長岡郡				美馬郡	勝浦郡	宇摩郡	三木郡	阿野郡	周布郡	北宇和郡	伊豫郡	周布郡	北宇和郡	勝浦郡	寒河郡	大内郡	小豆郡	新居郡	南宇和郡	喜多郡	

監視區域並監視區長駐割地一覽表

第 十 旅 管															師 管 區 及 旅 管 區	
第 六															大隊區	
宮 崎			鹿 兒 島			八 代			熊 本						駐 割 地	監 視 區 長
竹 田	延 岡	宮 崎	知 覽	中 名	鹿 兒 島	向 田	山 口	八 代	宮 地	高 瀨	熊 本	熊 本 區	飽 田 郡	山 本 郡	詫 摩 郡	宇 土 郡
大野郡	直入郡	南海郡	給黎郡	南諸縣郡	鹿兒島郡	薩摩郡	天草郡	八代郡	阿蘇郡	玉名郡	熊本區	熊本區	飽田郡	山本郡	詫摩郡	宇土郡
北海郡	兒湯郡	宮崎郡	給黎郡	南諸縣郡	鹿兒島郡	薩摩郡	天草郡	八代郡	阿蘇郡	玉名郡	熊本區	熊本區	飽田郡	山本郡	詫摩郡	宇土郡
		北那珂郡	給黎郡	南諸縣郡	鹿兒島郡	薩摩郡	天草郡	八代郡	阿蘇郡	玉名郡	熊本區	熊本區	飽田郡	山本郡	詫摩郡	宇土郡
		南那珂郡	給黎郡	南諸縣郡	鹿兒島郡	薩摩郡	天草郡	八代郡	阿蘇郡	玉名郡	熊本區	熊本區	飽田郡	山本郡	詫摩郡	宇土郡
		東諸縣郡	給黎郡	南諸縣郡	鹿兒島郡	薩摩郡	天草郡	八代郡	阿蘇郡	玉名郡	熊本區	熊本區	飽田郡	山本郡	詫摩郡	宇土郡
		西諸縣郡	給黎郡	南諸縣郡	鹿兒島郡	薩摩郡	天草郡	八代郡	阿蘇郡	玉名郡	熊本區	熊本區	飽田郡	山本郡	詫摩郡	宇土郡
		北諸縣郡	給黎郡	南諸縣郡	鹿兒島郡	薩摩郡	天草郡	八代郡	阿蘇郡	玉名郡	熊本區	熊本區	飽田郡	山本郡	詫摩郡	宇土郡

數 兵 法 規

各師管監視區域表



新編  
皇朝  
沿革  
考

考 備		師 管																																																									
大島郡熊毛郡馭謨郡及沖繩縣并ニ鹿兒島大隊區知覽監視區ノ内河邊郡硫黃島、竹島、鼻島、中島、惡石島、口ノ島、臥蛇島、平島、諏訪ノ瀬島ノ十島ハ當分ノ内鹿兒島監視區ノ管轄ニ屬ス		第 十 二 旅 管																																																									
		長 崎			佐 賀			福 岡			小 倉																																																
		伊 萬 里	大 村	長 崎	柳 川	柄 崎	佐 賀	久 留 米	葦 屋	福 岡	大 分	中 津	小 倉																																														
東松浦郡	西松浦郡	北松浦郡	豊岐郡	石田郡	東彼杵郡	南高來郡	北高來郡	長崎區	西彼杵郡	南松浦郡	三潯郡	上妻郡	山門郡	下妻郡	三池郡	小城郡	杵島郡	藤律郡	佐賀郡	三根郡	神崎郡	其肆郡	養父郡	夜須郡	上座郡	御原郡	下座郡	山本郡	生葉郡	竹野郡	御井郡	宗像郡	鞍手郡	遠賀郡	吾麻郡	穂波郡	早良郡	那珂郡	粕屋郡	御笠郡	席田郡	殆土郡	志摩郡	福岡區	西國東郡	東國東郡	速見郡	大分郡	西國東郡	東國東郡	日田郡	下毛郡	宇佐郡	金救郡	京都郡	仲津郡	築城郡	上毛郡	田川郡

明治二十二年六月十八日印刷  
明治二十二年六月十九日出版

定價金五拾錢

編纂者

茨城縣士族 一色

範叙

宮城縣仙臺市東二番地寄留

同

伊藤

近春

宮城縣仙臺市北六番地寄留

發行者

宮城縣平民 高橋

藤七

宮城縣仙臺市國分町百二十二番地

同

伊勢

安右衛門

宮城縣仙臺市國分町百十二番地

印刷者

宮城縣士族 菊地

虎之進

宮城縣仙臺市北七番地丁六十四番地

印刷所

宮城縣仙臺市國分町五丁目 弘文館

改 正 去 見

二



發 行 所  
 宮城縣仙臺國分町五丁目 高 藤 書 店  
 同 四丁目 伊 勢 安 書 店

販 賣 所	
宮城縣仙臺市國分町	金 港 堂 支 店
同	佐 勘 書 店
同	伊 勢 半 書 店
同	三 友 社
同 大 町	木 村 文 助
同 刈田郡白石	高 橋 甚 兵 衛
同 柴田郡大河原	佐 藤 德 五 郎
同 伊具郡角田	八 島 平 兵 衛
同 名取郡岩沼	渡 邊 吉 右 衛 門
	栗原郡若柳
	黒川郡吉岡
	牡鹿郡石巻
	本吉郡志津川
	登米郡佐沼
	遠田郡涌谷
	志田郡古川
	同
	淺野榮之助
	青 砥 萬 兵 衛
	金 森 嘉 吉
	勝 倉 甚 藏
	近江 源 左 衛 門
	久 道 物 五 郎
	小 林 金 治
	佐々木 忠 五 郎

釋 義  
 鼈 頭 徵 兵 法 規

〔西洋紙 凡三百摺〕

●來ル八月二十日迄申入レノ分ニ限リ全國遞  
 送費ハ發行者ノ自辨トシ壹部金三拾八錢ヲ以  
 テ特別發賣ス希クハ至急申込アラシメテ



